

和仏法律学校講義録

下村, 宏 / 若槻, 禮次郎 / 金井, 延 / 杉本, 貞治郎 / 栗
津, 清亮

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-14

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

54

(発行年 / Year)

1900-08-25

和佛法律學校

講義錄

第貳部

第拾四號

商法會社 (自三六至五三) 法學士 杉本貞治郎

商法保險 (自七八至九七) 法學士 粟津清亮

經濟學總論 (自二一至二五) 法學博士 金井延

財政學 (自三三至四二) 法學士 下村宏

現行租稅法論 (自一三至一八) 法學士 若槻禮次郎



○生徒募集廣告

本校ハ來學年(九月)ヨリ更ニ講師ヲ増聘シ最モ斬新ノ學理ニ基キ懇切熱心ニ法律學ヲ教授ス
入學志望者ハ速ニ申込マルヘシ

入學試験

甲種普通入學試験) 九月九日午前八時執行

乙種(徵兵令ニ依リ徵集増強ノ特典アル入學試験) 九月一日午前八時執行

編入試験

九月二十日 午前八時執行但第二年級ヘノ編入試験ニ限ル

入學志望者ハ右試験前日マテニ願書及ヒ履歷書ヲ差出スヘシ

授業開始

九月十一日各級共授業開始

規則入用

ノ向ハ郵券貳錢ヲ送ルヘシ

明治三十三年八月

司法部指定 私立 和佛法律學校
文部省認可

第四節 退社

退社ノ性質ハ會社ニ付キ組合主義ヲ採ルト法人主義ヲ採ルトニ依リテ異ナレ
リ羅馬法ニ於テハ商社會社ノ如キモノナク社團ハ總テ組合關係ナリシヲ以テ
其契約ノ當事者タル人ノ變動ハ極メテ重大ニシテ組合員一人ノ死亡ハ直チニ
契約ノ消滅ヲ來セリ然レトモ其後漸次商業上ノ結社發達スルニ至リ社員ノ一
人缺ケタルカ爲メ會社ノ消滅ヲ來スハ甚タ不便ナルヲ以テ現今ニ至リテハ商
事會社ヲ以テ組合關係ナリトスル法律ニ於テモ仍ホ社員ノ退社ヲ認ムルモノ
アルナリ然レトモ會社ニシテ組合關係ナル以上ハ一人ノ社員缺ケタルトキハ其
會社ハ原則トシテ消滅スルコトヲ認メサルヘカラス何トナレハ契約關係ニ於
テハ十人中一人缺ケタルトキハ以前ノ契約ナリト謂フコト能ハサレハナリ又契
約ノ變更ハモ看ル能ハス何トナレハ契約ノ主體缺ケタルヲ以テナリ故ニ獨逸
商法ニ於テハ社員ノ退社ハ之ヲ解散ノ章ニ規定セリ然レトモ一人ノ組合員缺
ケタルカ爲メ常ニ組合關係ノ消滅スルモノトスルハ不便ナルヲ以テ一人ノ社

090
1900
2-1-14

第四節 退社

退社ノ性質ハ會社ニ付キ組合主義ヲ採ルト法人主義ヲ採ルトニ依リテ異ナレリ羅馬法ニ於テハ商社會社ノ如キモノナク社團ハ總テ組合關係ナリシヲ以テ其契約ノ當事者タル人ノ變動ハ極メテ重大ニシテ組合員一人ノ死亡ハ直チニ契約ノ消滅ヲ來セリ然レトモ其後漸次商業上ノ結社發達スルニ至リ社員ノ一人缺ケタルカ爲メ會社ノ消滅ヲ來スハ甚タ不便ナルヲ以テ現今ニ至リテハ商社會社ヲ以テ組合關係ナリトスル法律ニ於テモ仍ホ社員ノ退社ヲ認ムルモノアルナリ然レトモ會社ニシテ組合關係ナル以上ハ一人ノ社員缺タルトキハ其會社ハ原則トシテ消滅スルコトヲ認メサルヘカラス何トナレハ契約關係ニ於テハ十人中一人缺タルトキハ以前ノ契約ナリト謂フコト能ハサレハナリ又契約ノ變更トモ看ル能ハス何トナレハ契約ノ主體缺ケタルヲ以テナリ故ニ獨逸商法ニ於テハ社員ノ退社ハ之ヲ解散ノ章ニ規定セリ然レトモ一人ノ組合員缺ケタルカ爲メ常ニ組合關係ノ消滅スルモノトスルハ不便ナルヲ以テ一人ノ社

員ノ破産死亡無能力ノ如キハ之ヲ解散原因ナリトセルニ拘ラス此等ノ原因生
 スルモ他ノ社員ハ此一人ヲ除名シテ會社ヲ繼續スルコトヲ得ル規定ヲ設ケタ
 リ理論上ヨリ言ヘハ此場合ニ於テモ社員一人ノ死亡破産無能力等ハ會社消滅
 ノ原因ニシテ殘リノ社員ハ新ナル會社ヲ設立シタルモノト謂ハサルヘカラス
 然レトモ此ノ如キハ甚タ不便ナルヲ以テ法律ノ規定ニ依リ會社ヲ消滅セサル
 モノト看做セルナリ然レトモ我商法ノ如ク會社ニ付キ法人主義ヲ採ル以上ハ
 社員カ退社スルモ法人タル會社ノ存立ニ何タル影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス
 隨テ一人ノ社員ノ脱退ヲ會社解散ノ原因ト認ムヘキ理由ナシ
 退社ハ社員關係ノ斷絶ヲ意味ス即チ社員トシテ一定ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ
 者退社ニ因リテ其關係ヲ斷絶スルナリ而シテ退社ハ後ニ述フル退社原因ノ發
 生ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ會社ノ内部關係トシテハ其原因
 ノ發生アレハ退社ヲ爲スト雖モ會社ノ外部關係即チ第三者ニ對シテハ登記ニ
 依リテ退社ノ效力生ス第七三條
 退社ヲ區別シテ任意ノ退社ト強制ノ退社トニ區別スルコトヲ得

(甲) 任意ノ退社

第一 定款ニ存立時期ヲ定メサルトキ
 第二 或社員ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキ
 此二箇ノ場合ニ於テハ社員ハ任意ニ退社スルコトヲ得但シ此場合ニ於ケル任
 意ノ退社ハ營業年度ノ終ニ於テシ且ツ六箇月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス第
 六八條第一項
 定款ニ存立時期ヲ定メサル場合ニ於テ何故ニ任意ニ退社スルコトヲ許スヤ蓋
 シ存立時期ヲ定メサルヲ以テ永久ニ存續セシムル意思ナリト解釋スルコト能
 ハス何トナレハ若シ社員ノ盡ク死亡スルトキハ會社ハ消滅セサルヘカラザレ
 ハナリ而シテ社員ノ死亡スル時期ハ不定ナリ故ニ此場合ニ於テハ會社ノ存立
 時期ハ不定ナリ然ラハ則チ或社員脱退スルモ甚シキ不都合ナシト謂ハサルヘ
 カラス又或社員ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキモ之ト同一理
 由ナリ即チ或社員ハ明日死亡スルヤモ知レス人ノ生命ハ其最長期ハ豫想シ得
 ルモ何時死亡スルヤハ之ヲ知ルコト能ハス果シテ然ラハ或社員明日死亡スル

コトモ豫期セサルヘカラサルヲ以テ明日退社スルコトモ亦差支ナシト附ハサルヘカラス但シ社員ノ都合ニ因リテ退社スルモノナルヲ以テ會社ノ利益ヲ保護シ必ス豫告セテ事業年度ノ終ニ於テ退社セシムルナリ

第三 已ムコトヲ得サル事由アルトキ

已ムコトヲ得サル事由アルヤ否ヤハ事實問題ニシテ裁判官ノ自由判斷ニ委スルヨリ外ナキナリ而シテ已ムヲ得サル事由アリト認メタル以上ハ會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス又退社時期ニ制限ナシ其然ル所以ノモノハ合名會社ハ人的信用ヲ基礎トスルモノナルヲ以テ已ムコトヲ得サル事由アルモノヲ強弁テ留マラシムルハ穩當ナラサルヲ以テナリ民法第六百七十八條第二項ノ規定モ之ト同一ノ理由ニ基クナリ

第四 總社員ノ同意

總社員ノ同意ニ因リ退社シ得ルコトハ別ニ説明スルヲ要セス

(乙) 強制ノ退社第六九條

第一 定款ニ定メタル事由ノ發生

第二 死亡

第三 破産

第四 禁治産

第五 除名

除名ハ他ノ社員又ハ裁判所ノ命令ニ依リ即チ他人ノ意思ニ依リテ社員タル關係ヲ斷絶セラルルナリ第七〇條第八三條他ノ社員ノ意思ヲ以テ除名ヲ爲スニハ左ノ二條件具備スルコトヲ要ス

(一) 除名セラルル人以外ノ社員カ總テ同意セサルヘカラス

(二) 第七十條第一號乃至第五號ノ場合ニ相當セサルヘカラス而シテ除名ヲ以テ除名セラレタル社員ニ對抗シ得ルニハ尙ホ一ノ條件ヲ要ス

(三) 除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルコト是ナリ

次ニ退社ノ效力ヲ一言セン
退社シタル社員ハ退社ナル事由ニ因リ社員トシテ會社ニ對シテ有スル法律關

係ヲ絶ツナリ然レトモ退社員トシテ更ニ會社ニ對シ一定ノ權利ヲ有シ又第三者ニ對シ一定ノ義務ヲ有ス

(甲)退社員ノ權利

一持分ノ拂戻ヲ受クルノ權利 會社ハ法人ナリ故ニ社員カ一定ノ出資義務ヲ履行シタルトキハ茲ニ會社財産成立ス是レ組合關係ト異ナル所ニシテ組合關係ニ於テハ組合財産ハ直接ニ組合員ノ財産ナレトモ會社ノ場合ニハ會社財産ハ直接ニ社員ノ財産ニ非ス唯社員ハ會社財産ニ對シ一定ノ持分ヲ有スルノミ爾ヲ退社員ハ退社ノ當時會社ニ對シテ有スル持分ノ拂戻ヲ請求シ得ル權利ヲ有ス合名會社ノ社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲ズテ而シテ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的トシタル場合ト雖モ第五十條第五號ニ依リ其出資ノ評價アルヘキヲ以テ自ラ其持分ノ一定スヘキハ勿論ナリ然レハ退社ノ際ニ此持分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ルコト他ノ財産ヲ以テ出資ト爲シタル者ト異ナルコトナキナリ第七一條然レトモ此規定ハ命令規定ニ非ス定數ニ於テ反對規定ヲ設クルコトヲ妨ケサルナリ同上末文

二會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用非タルトキハ其氏又ハ氏名ノ使用ヲ止ムヘキコトヲ請求シ得ル權利第七二條 會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用非シムルトキハ第三者ヲシテ社員ナリト信セシムル虞アリ隨テ第六十五條ノ規定ニ依リ社員ト同一ノ責任ヲ負フヘキ危險アルヲ以テ退社員ハ其使用ヲ止メシムル權利ナカルヘカラス

(乙)退社員ノ義務

退社員ハ退社ニ因リテ社員關係ヲ絶ツト雖モ退社以前ノ關係ニ付テハ普通ノ社員ト同ク權利ヲ有シ義務ヲ負ハサルヘカラス蓋シ退社員ハ退社ノ當時會社ニ對シテ有スル持分相當ノ權利ノ配當ヲ請求シ得ル權利ヲ有スルト同時ニ又持分相當ノ義務ヲモ負擔セサルヘカラス即チ第三者ニ對シテハ退社前ノ會社ノ義務ニ付キ退社後ト雖モ尙ホ全財産ヲ以テ其義務ヲ盡ササルヘカラス而シテ退社ハ第三者ニ對シテハ登記セサレハ效力ナシ故ニ登記前ノ會社ノ義務ニ付テハ總テ其責任ヲ負ハサルヘカラス但シ此責任ハ退社ノ登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅スルモノトス第七三條第一項

尙ホ一言スヘキハ持分ノ讓渡ナリ持分ヲ讓渡シタル社員ハ一ノ退社員ナリ何トナレハ退社ナルモノハ社員關係ノ斷絶ナリ持分ノ讓渡モ社員關係ノ斷絶ナリ唯異ナル所ハ普通ノ退社ニ因リ社員數ヲ減スレトモ持分ノ讓渡ニ因ル退社ハ社員其人ハ異ナルモ社員數ニ變動ナシト云フノヨリ故ニ第七十三條第二項ハ退社員ニ關スル規定ヲ持分ヲ讓渡シタル社員ニ準用セリ

第五節 解散

解散ノ性質ハ讀シテ字ノ如ク會社ノ解體ニシテ人格ヨリ言ヘハ法人ノ死亡ナリ然レトモ後ニ清算ノ節ニ詳説スル如ク解散ニ因リ法人カ全ク死亡スルモノトハ謂フヘカラス解散アレハ會社ハ其目的タル業務ヲ停止セザルヘカラスト雖モ其從前ノ業務ニ依リテ負フ所ノ義務又其業務ニ依リテ得タル權利ハ解散ニ因リ當然消滅スルモノニ非ス即チ解散アルモ尙ホ從來ノ權利義務ハ清算ノ手續ヲ終ラナル間ハ會社ノ權利トシテ又會社ノ義務トシテ存在セザルヘカラス若シ解散ニ因リ會社ナル法人死亡スルモノトセハ其權利義務ハ何人ノ權

利義務ナルヤヲ知ル能ハス故ニ解散ハ會社ノ死亡ト言ハンヨリハ寧ロ會社ノ生産力ノ絶滅ト謂フヘキナリ然レトモ又一方ヨリ觀察スルトキハ會社ハ自然入ト異ナリ自然ノ生存目的ヲ有スルモノニ非ス國家カ或目的ノ存在ヲ認メテ茲ニ始メテ法人成立ス即チ法人ハ此目的ノ存スル所ニ存在スルモノナルヲ以テ此目的以外ニハ法人ナシト謂ハザルヘカラス而シテ商社會社ノ目的ハ或商業ナリ其商業ヲ爲ス動即チ生産力滅亡スルトキハ會社ノ目的ノ滅亡ヲ致スナリ其目的ノ滅亡ハ即チ會社ノ死亡ナリト論モ敢テ不當ナリトハ斷言スル能ハス

會社解散ノ原因ハ種種アリト雖モ之ヲ二大別スルトキハ有意ノ解散無意ノ解散ト爲スコトヲ得

(甲)有意の解散 有意の解散ノ原因ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一)存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生ニ因リ會社カ解散スヘキ場合
存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生ニ因リ會社カ解散スヘキ場合ニ於テハ總社員ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得然レトモ此場合ニ於テ

會社ヲ繼續スルニハ常ニ總社員ノ同意ヲ要スルモノトセハ社員中一人ニテモ不賛成者アレハ會社ハ解散セサルヘカラサルニ至リ甚タ不便ナルヲ以テ法律ハ一部社員ノ同意ヲ以テ猶會社ヲ繼續シ得ルモノトセリ但シ此場合ニ同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做サル(第七五條)

(二) 總社員ノ同意

總社員ノ同意ニ因リ會社ヲ解散スルハ所謂任意ノ解散ナルヲ以テ定款ニ何等ノ規定ナキ場合ト雖モ之ヲ以テ解散シ得ルハ勿論ナリ

(三) 會社ノ合併

會社ノ合併トハ二箇ノ會社カ一箇ノ會社ト爲ルヲ謂フ合併ニ二種アリ其第一ハ二箇ノ會社中一ノ會社消滅シテ他ノ一ノ會社ニ合併スルナリ第二ノ場合ハ二箇ノ會社消滅シテ新ニ一ノ會社成立スルナリ何レノ場合ニ於テモ會社ノ合併ハ總社員ノ同意ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(第七七條)

合併ハ第一ノ場合ニ於テハ合併セラルル會社ニ於テハ解散ナレトモ合併ヲ受タル會社ニ於テハ解散ニ非ス又第二ノ場合ニ於テハ二箇ノ會社解散シテ新

ナル一ノ會社成立スルナリ故ニ合併ハ常ニ解散ノ原因ト爲ルト云フ能ハス唯合併ナル事實アレハ何レノ會社カハ必ス解散セサルヲ得ス或學者ハ會社ノ營業全部ノ讓渡ヲ論シテ會社ノ合併ヲ營業全部ノ讓渡ノ一種トセリ即チ第一ノ場合ニ於テハハナル會社ハ自己ノ營業全部ヲbナル會社ニ讓渡セルモノナリ又第二ノ場合ニ於テハハbナル會社各其營業ノ全部ヲ新ナルc會社ニ讓渡セルモノト觀ルナリ而シテ營業全部ヲ讓渡セハ會社ノ目的タル營業其モノヲ失フヲ以テ其營業ヲ讓渡スル決議ハ會社ノ死亡即チ解散ヲ爲スト説明セリ此説明ハ第一ノ場合ニ於テハ可ナルモ第二ノ場合ニ於テハ不論理タルノ誤ヲ免レス何トナレハ此場合ニハabナル二箇ノ會社消滅シ新ナルc會社成立スルモノナルヲ以テ未ダ成立セザルc會社ニn及ヒb會社ノ營業全部ヲ讓渡スルハ不能ナレハナリ

會社カ合併ヲ爲スニハ左ノ手續ヲ爲ササルヘカラス

一、合併ノ決議ニハ總社員ノ同意ヲ要ス(第七七條)

二、合併ノ決議ヲ爲シタル日ヨリ二週間内ニ會社ノ債權者ニ對シ異議アラハム一

定ノ期限内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且ツ知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス(第七八條)

若シ債權者一定ノ期間内ニ異議ヲ達ヘサリシトキハ合併ヲ承認シタルモノト看做ス若シ又債權者異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ辨濟ヲ爲スカ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非ラレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス若シ辨濟セス又ハ相當ノ擔保ヲ供セスシテ合併シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ達ヘタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス(第七九條)又會社カ公告スル義務アルニ拘ラス公告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ヲ以テ總テノ債權者ニ對抗スルコト能ハス又會社カ知レタル債權者ニ對シ催告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其催告ヲ受ケサリシ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス(第八〇條)

會社カ合併シタルトキハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立セラレタル新會社ニ移ル故ニ合併ハ會社ノ解散原因ナレトモ合併ニ因リ解散シタルトキハ清算ノ問題起ラス何トナレハ解散セラレタル會社ノ權利義務ハ當然合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ

設立セラレタル新會社ニ移レハナリ(第八二條)

會社合併シタルトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス其方法ハ第八十一條ニ規定セリ一讀明瞭ナルヲ以テ説明ヲ省ク

(乙) 無意的解散 無意的解散ノ原因ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 會社ノ破産

(二) 裁判所ノ命令ニ因リ解散スヘキ場合ハ第四十七條第四十八條及ヒ第八十三條

裁判所ノ命令ニ因リ解散スヘキ場合ハ第四十七條第四十八條及ヒ第八十三條等ノ場合ナリ

(三) 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

(四) 社員一人ト爲リタルトキ

民法第六十八條ニ於テハ社員ノ缺亡ヲ以テ社團法人ノ解散原因トセリ故ニ民法ノ規定ニ依ルトキハ社員一人ト爲ルモ尙ホ法人ハ解散セス是レ合名會社ノ規定ト異ナル所ナリ理論トシテハ民法ノ規定正當ナラント信ス何トナレハ社團法人ヲ設立スルニハ少クトモ二人ノ社員ナカルヘカラスト雖モ一旦法人成立

シテ獨立ナル人格ヲ有スルニ至リタル以上ハ社員ノ存在ト法人ノ存在トハ全く別物ナレハナリ極論スレハ社員缺亡スルモ法人ハ尙ホ存在シ得ルモノト謂ハサルヘカラス法人ノ機關ノ如キモ必スシモ社員ヲ以テ之ニ充テサルヘカラスト云フノ理ナシ然レトモ亦理論ヲ離レテ實際上ヨリ觀察スルトキハ苟モ社団法人タル以上ハ社員缺亡スレハ社団法人モ亦解散スルモノトスルハ止ムヲ得サル規定ナリ而シテ合名會社設立ノ目的ハ數人共同シテ商業ヲ營ムニ在ルヲ以テ其社員一人ト爲リタルトキハ之ヲ會社トシテ存續セシムル必要ナキナリ

第六節 清算

第八十四條ニ曰ク會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做スト是レ會社ハ本來解散ニ因リテ其人格ヲ失フヘキヲ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト法律ヲ推定セルナリ此推定ニ因リテ會社ナル法人人格ハ法律上未タ消滅セサルナリ然レトモ其人格ノ行動ノ

範圍ハ全ク一變ス則チ解散ニ因リテ會社ハ化生セルナリ會社ハ解散ニ因リテ死亡セルニ非ス化生セルナリ解散後會社ノ化身ハ生ス假ニ之ニ清算會社ト稱スルモ可ナリ

解散ノ目的ハ會社人格ノ死滅ニ在リ是ニ於テ會社ハ全ク其生産力ヲ絶止スルナリ其生産力ヲ絶止スル結果從來ノ營業ヲ廢止シテ其現務ヲ結了シ其債權ヲ取立テ其債務ヲ辨濟シ殘餘財産アルトキハ之ヲ社員ニ分配ス是ニ於テ會社ハ總テノ權利義務ノ關係ヲ解脱シテ其最後ヲ遂クルコトヲ得ルナリ故ニ會社ハ解散ニ因リテ直チニ其人格ヲ失フニ非スシテ清算ノ結了ニ因リテ始メテ死亡スルナリ

清算ハ解散後ノ會社財産ノ處分手續ナリ而シテ解散後ハ必ス常ニ此手續ヲ要スルニ非ス合併又ハ破産ニ因ル解散ハ別ニ法定手續ノ規定アルヲ以テ清算手續ニ依ラサルナリ(第八六條)

清算手續ニ二様アリ一ハ法定清算ニシテ一ハ任意清算ナリ任意清算トハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ定メタル會社財産ノ處分方法ナリ舊商法ニ於テハ任

意清算ヲ許ナス破産ノ場合ヲ除ク外ハ必ス毎ニ法定清算ニ依ラサルヘカラスト規定セリ然レトモ合名會社ハ常ニ少數社員ヲ以テ組織セラレ又其社員ハ皆無限責任ヲ負フ者ニシテ殆ト民法ノ組合ト同様ノ觀アリ隨テ會社ノ内部關係ニ於テハ已ニ組合規定ヲ準用セルカ如キ次第ナルヲ以テ會社財産ノ處分方法ニ付テモ亦總社員ノ同意ヲ以テ任意ニ之ヲ定ムルコトヲ許スモ妨ナシ例ヘハ會社財産ヲ現物ノ儘ニテ分配スルカ如キハ最モ合名會社ニ於テ其必要ヲ見ルヘクシテ又實際ノ弊害トシテ認ムヘキモノナシ然レトモ會社財産ノ分配ハ先ツ會社ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ナラサルヘカラスルヲ以テ債權者ヲ保護スル規定ナカルヘカラス是レ商法第八十五條第二項ニ於テ合併ノ場合ニ債權者ノ爲メニ設ケタル規定即チ第七十八條第二項第七十九條第八十條ヲ準用セル所以ナリ此準用ノ結果トシテ會社ハ解散ノ決議後二週間内ニ其債權者ニ對シ異議アラハ二箇月以上ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告セ且ツ知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要セ債權者カ其期間内ニ異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ承認セタルモノト看做ス若シ又債權者カ之ニ異議ヲ述ヘタ

ルトキハ會社ハ之ニ辨濟ヲ爲スカ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ清算ヲ爲スコトヲ得ス此手續ニ違反シテ爲シタル清算ハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス又會社カ前述ノ公告ヲ爲サスレテ爲シタル清算ハ之ヲ以テ總テノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス知レタル債權者ニ催告ヲ爲サスレテ爲シタル清算ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得サルナリ
清算ハ必スシモ解散ノ結果ノミニアラス會社カ事業ニ著手シタル後其設立ノ取消サレタル場合ニモ亦清算手續ニ依ルコトヲ要ス第一〇〇條蓋シ會社ノ設立ノ取消サレタル場合ニハ會社ハ始ヨリ存在セサルコトナルナリ故ニ會社ノ解散ト謂フコト能ハス然レトモ債權者ニ對スル關係ヨリ此場合ニ於テモ亦清算手續ニ依ラシムル必要アリ而シテ其清算人ハ利害關係人ノ申請ニ因リ裁判所之ヲ選任ス

法定清算手續ハ第八十七條以下十三箇條ニ規定セラル今其要領ヲ略述セン
一 清算手續ヲ行フ者
清算手續ヲ行フ者ハ第一總社員ナリ第二清算人ナリ合名會社ニ在リテハ其社

員少数ナルヲ以テ平常業務ノ執行ニ關シテモ總社員之ヲ爲スコトアルナリ然レハ清算手續ニ於テモ亦總社員カ之ヲ行フコトヲ妨ケサルヘシ故ニ新商法ハ舊商法第二百二十九條ノ規定ヲ改メテ民法第六百八十五條ノ組合ノ清算ニ關スル規定ニ倣ヒ總社員カ共同シテ清算事務ヲ行フコトヲ認メタルナリ(第八七條)

二 清算人ノ選任及ヒ解任

總社員共同シテ清算ヲ行ハサルトキハ社員ハ清算人ヲ選任セサルヘカラス清算人ノ選任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス第八七條第二項然レトモ第七十四條第五號ノ場合即チ社員カ一人ト爲リタルニ因リ解散スル場合ニハ其殘留セル一人ノ社員ヲシテ清算事務ヲ行ハシムルハ極メテ弊害ヲ生スル恐アルナリ何トナレハ社員カ一人ト爲ルニハ必ス退社員アル場合ナルヘシ此場合ニハ退社員アルトキハ直チニ解散ト爲ルヲ以テ退社員ノ持分ノ拂戻モ亦清算事務ノ一部ナリ此ニ於テ昨日マテ同等ノ權利ヲ以テ會社業務ヲ執行シタル者カ今日其退社ト共ニ會社解散シ殘餘財産ノ分配セララルニ當リ至ク他ノ一人ノ自由ニ其持分ヲ計算セララルカ如キハ條理上甚タ好マシカラス又第三者ニ對スル關

係ニ於テモ種種ノ弊害モ生スヘキヲ以テ此場合ニハ裁判所カ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任スルナリ(第八八條)

又會社カ裁判所ノ命令ニ因リ解散シタルトキハ清算人ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任ス(第八九條蓋シ裁判所カ解散ヲ命スル場合ハ第一、會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後六箇月内ニ開業ヲ爲ササルトキ(第四七條第二、會社カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ(第四八條)第三、已ムコトヲ得サル事由ヲ以テ社員カ解散ヲ請求シタルトキ(第八三條)等ニシテ皆會社ノ内部ニ於テ不正又ハ不穩ノ事由アル場合ナルヲ以テ其社員ヲシテ清算事務ヲ行ハシムルハ危険ノ虞アレハナリ

清算人ハ之ヲ解任スルコトヲ得ヘシ社員カ清算人ヲ選任シタルトキハ社員ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得又裁判所ハ重要ナル理由アルトキハ社員ノ選任シタルト裁判所カ選任シタルトヲ問ハズ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得ルナリ(第九六條)

週間内ニ清算人ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ自己ノ氏名住所ヲ登記スルコトヲ要シ解任又ハ變更アリタルトキハ二週間内ニ本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ解任又ハ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス(第九〇條第九七條)

三 清算人ノ職務及ヒ權限

清算人ノ職務ハ第九十一條第一項ノ規定スル所ナリ即チ左ノ如シ

- 一 現務ノ結了
- 二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
- 三 殘餘財産ノ分配

是レ民法第七十八條法人ノ清算人ノ規定ト同一ナリ唯民法上ノ法人ニ在リテハ殘餘財産ハ必スシモ社員ニ分配セラルヲ以テ殘餘財時ノ分配ト云ハスシテ引渡ト云フナリ

清算人ハ此職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス尤モ清算人數人アルトキハ其過半數ヲ以テ之ヲ決スト雖モ第三者ニ對シテハ各自會社ヲ代表スル權限アリ即チ清算時期ニ於テハ會社ノ業務執

行權ト會社代表權トハ一ニ清算人ノ手ニ在ルナリ又此清算人ノ權限ニ制限ヲ加フルモ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコト能ハス恰モ支配人ノ權限ノ如キナリ(第九一條第二項第三項第九三條)

清算人ハ就職後直チニ會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作り之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定メタル場合ニ於テハ二週間内ニ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ラシムルニ清算人ハ就職後運滞ナク之ヲ作ルコトヲ要ストセルハ清算人ノ責任ヲ重カラシメタルナリ(第九四條第八五條)清算人ハ又社員ノ請求アルトキハ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス(第九四條第二項)

清算人其職務ヲ行フニ當リ會社ノ財産カ其債務ヲ辨濟スルニ足ラサルコトヲ發見シタルトキハ直ニ裁判所ニ破産宣告ノ請求ヲ爲シ且ツ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス破産宣告ノ請求ヲ爲シタルトキハ清算手續ハ絶止シテ破産手續ト爲ルヲ以テ清算人カ其事務ヲ破産管財人ニ引渡シタルトキハ清算人ノ任務ハ終了ス若シ破産宣告請求前ニ於テ清算人カ已ニ或債權者ニ辨濟シタルカ又ハ社

員ニ分配シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得ルナリ(第九一條第四項民法第八一條)

又會社ニ現存スル財産ヲ以テ會社債務ヲ辨済スルニ足ラザル場合ニ社員ノ出資ニ未拂込ノ部分アルトキハ清算人ハ其出資ノ辨済期ニ拘ラス直チニ拂込マシムルコトヲ得社員ノ出資モ會社ニ對スル債務ナリト雖モ社員ハ會社債務ニ付キ第三者ニ對シテ責任ヲ負フ者ナルヲ以テ會社ノ債務ヲ辨済スルカ爲メニハ辨済期ニ拘ラス其出資ヲ爲ササルヘカラサルナリ此未拂出資ハ會社ノ債權ニシテ會社財産ノ一部ナリ若シ未拂込出資ヲ合スルモ尙ホ會社債務ヲ辨済スルニ足ラザトキハ遂ニ前段ニ述ヘタル破産宣告ノ申請ヲ爲ササルヘカラス合名會社員ハ會社ノ債權者ニ對シテ無限責任ヲ負擔スト雖モ此責任ハ會社財産ヲ以テ辨済スルコト能ハサル場合ニ生スルモノナレハ會社カ破産手續ヲ終ラサル間ハ社員ハ辨済義務ナシ(第六三條然レトモ出資義務ハ之ニ反シテ會社ニ對スル債務ナルヲ以テ會社ニ現存スル財産ヲ以テ辨済スルニ足ラザルトキハ直チニ之ヲ拂込マシムルナリ

會社財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコトヲ得ヘキト雖モ清算人ハ現實ニ債務ヲ辨済シタル後ニ非サレハ會社財産ヲ社員ニ分配スルコトヲ得ス是レ債權者ヲ保護スル爲メニ止ムヘカラサル規定ナリ(第九五條此規定ニ反シテ爲シタル分配ハ無効ナルヲ以テ第三者ハ清算人ニ其取戻ヲ請求スルコトヲ得ルナリ)清算人カ現務ヲ終了シ債權ヲ取立テ債務ノ辨済ヲ終リテ此ニ殘餘財産ノ分配ト爲リ殘餘財産ノ分配ヲ終レハ清算人ノ任務ハ此ニ終了ス清算人ノ任務カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞トク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムヘシ社員若シ一箇月内ニ此計算ニ對シテ異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス然レトモ清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ異議期間經過後ト雖モ社員ハ之ニ異議ヲ述フルコトヲ得ルナリ(第九八條)

清算人ハ清算ノ終了シタルトキハ遲滞ナク本店及ロ支店ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲ササルヘカラス(第九九條)

四 清算ニ關シ社員ノ有スル權利義務

社員ハ會社ニ現存スル財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ辨済スルコトヲ得ザルトキハ

未拂込ノ出資ヲ拂込マナルヘカラス又會社財産カ債務ヲ辨濟シテ餘剩アルトキハ其分配ヲ受タル權利ヲ有ス若シ又總社員共同シテ清算ヲ爲ス場合ニ於テハ各社員ハ清算事務執行ノ權利ヲ有シ又義務ヲ負ヒ此他清算人ヲ選任シ又ハ解任スル權利アリ計算ヲ承認スル權利アリ而シテ清算中社員カ死亡シタル場合ニ於テハ此權利義務ハ其相續人之ヲ繼承スルナリ會社ノ解散前ニ在リテハ社員ハ死亡ニ因リテ退社スヘシト雖モ已ニ解散シタル後ハ清算事務アルノミナレハ社員ノ退社ナルモノナシ故ニ其權利義務ハ死亡者ノ相續人ニ於テ繼承セサルヘカラス而シテ相續人數人アル場合ニ在リテハ社員ノ權利ヲ行フ者一人ヲ定メシムルナリ(第一〇二條)

商人ハ第二十八條ノ規定ニ依リ十年間其商業帳簿及ヒ其營業ニ關スル信書ヲ保存スル義務アリ會社モ亦商人ナルヲ以テ此義務ヲ免ルヘカラスハ勿論ナリ加之會社解散ノ場合ニ於テハ清算ニ關スル書類モ亦保存セサルヘカラス是ニ於テ此保存期間ノ起算點ト保存者トヲ定メサルヘカラス即チ第一百一條ニ於テ之ヲ規定セリ第八十五條ニ依リ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處

保險金受取人タルノ資格ハ被保險生命即チ被保險者ト財産上ノ利益關係ヲ有スルコトニ存スルヲ普通ノ法理ナリトス即チ被保險者ノ相續者父母兄弟姉妹等ハ勿論主人ト學僕債權者ト債務者共算組人等ハ財産的關係ヲ有スル者ニシテ皆保險金受取人タルヲ得ルノ理ナリ外國ニ於ケル多クノ立法ハ之ヲ認メ又普國ノ如キハ更ニ其資格ヲ自由ニシテ苟モ被保險者ノ承諾アル以上ハ誰人ニテモ受取人タルコトヲ得又英國ニハ曩ニ述ヘタル如ク證券所持人アリ利益關係ヲ有スル以外ノ人ニマテ之ヲ許スニ至レリ此ノ如キハ保險ノ應用ヲ盛ニシ其效用ヲ發揚スル爲メニハ大ニ適當ナル主義ナリト雖モ保險カ損害ノ賠償ニシテ被保險利益ノ保護ナリト云フ精神ニハ違反シタル規定ナリ保險ハ賭事ニ非ス被保險者カ死亡シテ之ト何等ノ利害關係モナキ者カ保險金ヲ受取ルコトハ不當ナリ保險契約ハ贈與又ハ遺贈ノ目的ノ爲メニ締結セラルヘキモノニ非ス縱令被保險者ノ意思ナリトモ其死亡ニ因リテ受クヘキ財産ヲ利害關係ナキ他人ニ贈與セントハ保險契約カ任スヘキ性質ノモノニ非ス贈與若クハ遺贈ハ宜シク他ノ贈與若クハ遺贈ニ適當ナル方法又ハ形式ニ依リテ爲スヘキ

「サツ」云々、保險契約の關係者、保險金受取人の何人ニテモ可ナリト云フカ如キ開放主義ハ前陳ノ理由ニ據リテ子輩ノ養成セザル所ナレトモ之ヲ我商法ノ如ク甚シク狭隘ニ制限スルコトハ子輩ノ常ニ攻撃スル所ナリ我商法ハ前ニ掲ケタル如ク保險金受取人ヲ被保險者自身ト其相續人又ハ親族ニ限ルトシ甚シク保險利用ノ途ヲ塞キタルハ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ此ノ如キ制限ハ高國其類ヲ見ザル所ニシテ之カ爲メニ主人ハ學僕ノ爲メニ契約ヲ結ビ得ス内縁ノ妻モ亦夫ノ死亡ニ因リ損害ヲ免ルルヲ得ス債務者ハ保險契約ニ依リテ其信用ヲ保ツノ手段ヲ利用スル能ハスシテ不便一方ナラサルナリ而シテ此ノ如キ不便ヲ省ミスシテ此ノ如キ規定ヲ設ケタル精神ハ生命保險ヲシテ賭事ニ陥ラシメス又被保險者ト愛情ノ關係薄キ保險金受取人カ保險金ヲ得ンカ爲メニ被保險者ヲ害セントスル恐アルヲ防カン爲メナリト云フニ在リ然レトモ是レ甚タ薄弱ナル理由ニシテ保險ヲ賭事ニ陥ラサラシメンニハ被保險利益ナキ契約ヲ禁スレハ可ナリ又第二ノ理由ニ至リテハ嚴タル刑法ノ制裁ト契約無効ノ防禦器アレハ其上無理ナル方法ヲ講スル

ニ及ハサルヘシ況ヤ親族間ト雖モ刑法ノ制裁ヲ怖レス契約無効ヲ賭シテ被保險者ヲ害スル者ナキヲ保スヘカラサルヲヤ多少ノ弊害ハ事物ノ利益ニ伴フモノニシテ誤ク之ヲ排除セルコトハ言フヘクシテ行フヘカラサレハ保險金受取人ノ如キモ多少ノ危險ハ當事者ノ監視ニ委シテ成ルヘク其行爲ヲ自由ニシ保險ノ利益ヲ廣大ナラシメンコトヲ望ム而シテ此希望ヲ充タサンカ爲メニ今日世界ニ於テ最モ普通ノ主義即チ被保險者ト利害關係ヲ有スル者ハ總テ受取人タルコトヲ得ルノ主義ニ從フヲ以テ至當ナリト思惟ス

保險金受取人ヲ定ムルコトハ保險契約者ノ任意ニシテ被保險者ト法規上ノ關係ヲ有スル者ナラハ誰人ヲモ之ニ指定スルコトヲ得ルナリ故ニ一タヒ定メタル受取人カ死スルカ又ハ彼ト被保險者トノ親族關係カ止ミタルトキハ保險契約者ハ更ニ之ニ代ルヘキ受取人ヲ定ムルコトヲ得ト規定セリ嚴格ナル法理ヨリ論究スルトキハ是レ甚タ不當ナル規定ニシテ第一ノ受取人ヲ定メタル契約ハ彼ト被保險者間ノ關係ヲ保險ノ目的トセルナリ故ニ彼カ死スルカ又ハ親族ノ關係ヲ脱シタルトキハ當該目的カ消滅セタルモノナレハ契約ハ當然消滅スヘ

キ理ナリ故ニ我商法モ第四百二十八條第三項ニ於テ左ノ如ク規定セリ
 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ死亡シタルトキ又ハ被保險者ト保險金額ヲ受取
 ルヘキ者トノ親族關係カ止ミタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取
 ルヘキ者ヲ定メ又ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ拂戻ヲ請求スルコ
 トヲ得

ト面シテ其末段ニ所謂被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ拂戻ヲ請求スルコ
 トヲ得トハ即チ契約カ無効ニ歸シ保險契約者カ拂戻金ヲ得テ退クコトニシテ
 之カ當然ノ結果ト謂フヘキモノナリ然レトモ受取人ノ死スル毎ニ又ハ親族關
 係ノ止ム毎ニ契約其モノヲ無効ニ歸セシムルハ保險契約者又ハ被保險者カ折角
 ノ特志ヲ以テ其相續者又ハ親族ノ爲メニ契約ヲ取結ヒタルヲ水泡ニ歸セシム
 ル憾アリ加之彼カ再ヒ他ノ親族ヲ受取人ト爲サント欲セハ再ヒ他ノ契約ヲ締
 結セサルヘカラナル不利アルカ故ニ法律ハ特ニ便宜ノ方法ヲ設ケ保險契約者
 カ契約ヲ解クコトヲ望マサル場合ニハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホサスシテ第二
 ノ受取人ヲ選定スルコトヲ得トセルナリ而シテ此ノ如クスト雖モ毫セ弊害ヲ

生セサルノミナラス却テ保險ノ效力ヲ圓滑ナラシムルノ利アリ

保險金受取人ノ請求權ハ被保險者死亡若クハ或一定ノ年齢ニ達シタルトキニ
 始メテ發生スルモノニシテ保險金受取人ノ權利ハ其條件附權利ナルコト恰モ
 遺贈及ヒ遺贈ニ因リテ利益ヲ受クヘキ者ノ權利ト同一ノ趣アリ故ニ保險金受
 取人ヲ指定シ得ル所ノ彼ノ保險契約者ハ事故ノ發生マテハ何時ニテモ受取人
 ヲ變更スルコトヲ得其代リニ事故ノ發生ト共ニ保險契約者及ヒ被保險者ノ權
 利義務ハ悉皆保險金受取人ニ移リ保險契約者ハ最早如何ナル權利ヲモ享有セ
 サルナリ

而シテ第一ノ保險金受取人カ死亡シ又ハ資格ヲ失ヒタル場合ニ於テ保險契約
 者カ第二ノ受取人ヲ指定セス又拂戻金ヲモ請求セサルトキハ如何之ニ對シテ
 ハ左ノ三種ノ回答ヲ見ン

- (一) 契約ハ當然效力ヲ失フ
- (二) 保險金受取人ノ承繼者カ受取人ト爲ル
- (三) 被保險者カ受取人ト爲ル

(一)ハ保險金受取人ヲ契約ノ本位ト爲シタル議論ニシテ固ヨリ正當ナル理由アリト雖モ曩ニモ述ヘタル如ク生命保險契約ハ單ニ特定ノ保險金受取人ノ利益ノ爲メニ締結セラルルニ止マラス被保險者カ其未タ定マラサル相續者ノ爲メニモ締結シ且ツ此方カ事實ニ近キヲ以テ受取人ノ死亡又ハ缺格毎ニ契約ノ效力ヲ失セシムルハ法ノ執ルヘキ主義ニ非ス

(二)ハ受取人ノ權利ヲ動かスヘカラサル權利ト誤解シタル說ニシテ死亡セタル受取人ハ終ニ保險金ヲ請求シ得ルノ時期ニ際會シ得サリシモノナリ其承繼者焉ソ獨リ之ニ際會シ得ヘケンヤ況ヤ受取人ノ資格ヲ失ヒタル者ノ承繼者ニ於テヲヤ

(三)ハ最も正當ナル論結ノ如ク思惟セラルル所ニシテ苟モ契約ノ本位ヲ保險金受取人ニ取ラス被保險者ノ著實ナル後顧ノ精神ヲ保護スルニ在ルナラハ保險金受取人ノ無クナリタル場合ハ被保險者自身ヲ受取人トシ彼カ死亡ノ場合ニハ其相續者ヲシテ當然受取人タラシムルヲ妥當ナリトス然レトモ是レ子輩ノ希望ニ過キス我商法ノ規定ハ却テ之カ反對ヲ示スカ如シ何トナレハ第四百二十

八條第四項ニ曰ク

保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ被保險者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

ト前項ニ定メタル權利トハ更ニ受取人ヲ定メ又ハ擲戻ヲ請求スルコトノ權利ニシテ之ヲ行ハスシテ死亡シタル場合ハ被保險者カ受取人タリト云ヒ死亡セサル場合ハ之ヲ規定セサルノミナラス却テ反對ノ意味ヲ表スレハナリ以上三箇ノ答案皆當ラストセハ如何ナル解釋ヲ採テ可ナルヘキヤ該條文ヨリ來ル所ノ當然ノ論理トシテ保險契約者カ死亡セスシテ前項ノ權利ヲ行ハサル場合ニハ被保險者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トセサルコトハ明白ナリ而シテ受取人ノ承繼者カ受取人タルヘカラサルコトハ前述ノ如シトスレハ殘ルハ唯保險契約者自身ナリ而モ彼カ當然受取人タリトハ子輩其根據ヲ發見スルニ若ムナリ但シ強テ之ヲ主張セント欲セハ左ノ二箇ノ理由ヲ得ヘキヤ

(一)契約者ハ受取人ヲ定ムル全權ヲ有セリ彼ハ保險金ヲ受取ルヘキ權利ノ源泉ナリ故ニ彼カ別ニ之ヲ定メサルトキハ彼自身ニ其權利ヲ保有スル場合ナリ

但シ彼カ商法ニ據リテ保險金受取人タル資格ヲ有セザルトキハ契約ハ無効ニ歸ス

(二)契約者カ權利ヲ行ハスシテ死亡セルカ故ニ其受取權カ被保險者ニ移ルナリ彼カ死亡セザレハ當然自ラ保險金ヲ受取ルヘキ者ナリ而モ此理由ノ牽強附會ニシテ薄弱ナルコトハ諸君ノ直チニ指摘シ得ル所ナラシテ輩ハ之ヲ法律不備ニ歸シ當該問題ニ就テハ歸若スヘキ所無シト言ハント欲ス

此問題ハ保險金受取人カ中途ニ指定セラレザリシ場合ナリト雖モ同一ノ疑問ノ研究ハ保險金受取人カ初ヨリ指定セラレザル場合ニ向ツテ注カルヘシ他日同アラハ再ヒ論スルノ期アラン

第五款 當事者ノ代理者

保險事業ノ性質上保險者ハ可成廣ク危險ヲ分配シ可成多數ノ相手方ト契約ヲ締結セザルヘカラサルカ故ニ保險會社ハ皆各地方ニ其代理者ヲ置キテ之ヲ通

シテ契約ヲ締結スルヲ普通トス俗ニ謂フ所ノ保險會社ノ代理店是ニシテ我國ニ於テモ火災海上生命其他ノ保險會社ヲ合セテ大凡六十會社カ多キハ七百少キモ百以上ノ代理店ヲ各地ニ置キテ其業務ニ當ラシム

是等ノ代理店ハ保險會社ヨリ手数料ト稱スル報酬ヲ受クル一種ノ代理商ニシテ其代理權ノ範圍ハ相互ノ契約ニ因リテ定メラルル所ノモノナレトモ一般ニ商法第一編第七章代理商ノ規定ヲ適用スヘキコト勿論ナリ而シテ保險會社ノ代理店ハ他種ノ代理商ト異ナリ充分被保險者ノ利益ヲ害セザラシムル爲メ舊商法ニ於テハ第六百四十五條ニ左ノ如ク規定セリ曰ク保險營業者ノ其取引場

ヨリ外ノ地ニ置キタル代辦人又ハ外國保險營業者ノ内國ニ置キタル代辦人ハ被保險者ニ對シ契約ノ取結陳述ノ承諾保險料ノ受取被保險額ノ支拂其他總テ保險者ノ代理ヲ爲ス權アリト看做ス但其代辦人カ被保險者ニ反對ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラスト此ノ如クニ保險代理店ノ權限ヲ確定シテ特ニ被保險者ヲ保護セシカ新商法ニハ此ノ如キ規定ナシ故ニ被保險者ハ代理者ニ就キテ其權限ヲ確知セザルヘカラサルノ不便アリ保險業法ノ制定ニ方リテハ必ス之ニ關

スル規定ヲ設ケサルヘカラスト思惟スルハ今日實際ニ於ケテ代理者ハ其權限ノ差違ニ由リテ二種ニ區別スルコトヲ得一ハ全然舊商法ノ規定ニ吻合シタル權限ヲ有スルモノニシテ一ハ單ニ保險料ノ受取及ヒ被保險者ト會社ノ間ノ交渉ノ媒介ヲ爲スニ過キサルモノトス火災海上等ノ保險ニ於テハ前者多ク生命保險代理店ハ概シテ後者ニ屬セリ代理店ハ代理ノ報酬トシテ會社ヨリ收入保險料ノ幾分ヲ請求シ其割合ハ五分ヲ普通トシ時ニ六分以上ヲ得ルコトアリ

保險者ト保險契約者トノ間ニ立チテ總ラノ媒介ヲ爲ス所ノ保險仲立人ナル者アリ海上保險ニ於テ最多ク行ハレ保險者カ未タ契約成立ノ證據タル保險證券ヲ發行セサル間ニ自ラ之ニ類似ノ書面ヲ契約者ニ交付シ之ニ依リテ保險者ヲ羈束スルコトアリ海上保險業務ノ最モ發達シタル諸外國ニ於テ盛ニ行ハルル所ニシテ仲立人ノ信用非常ニ發達シ法律ノ規定ニ據ラス商習慣上實行セラ

ル所ナリ
生命保險火災保險等ニ於テ保險申込所又ハ取次所ト稱シテ一見保險仲立人ニ

似タルモノ我邦ニ於テ夥多アレトモ這ハ單ニ保險契約志望者ヲ會社ヘ紹介スルニ止マリ保險者保險契約者就レニ對シテモ毫モ契約ニ關スル權利義務ヲ有セサルモノナリ

第五節 保險契約ノ申込及ヒ締結

保險契約ハ第三節ニ揭ケタル四箇ノ要素具備シ第四節ニ説明シタル契約ノ當事者カ合意ヲ爲シタルトキニ成立スルモノニシテ對手ノ提供及ヒ承諾ニ就テ別段ノ方式ヲ要スルコト無ク口頭ヲ以テスルモ書面ヲ以テスルモ或ハ他ノ書面中ノ條項ニ依リテ之ヲ爲スモ全ク自由ナリト雖モ實際ニ於テハ殆ト一定ノ方式アリ即チ保險契約者タラントスル者ハ保險申込書ナルモノヲ作り之ニ保險契約ノ要素及ヒ之ヲ説明スル所ノ詳細ノ事項ヲ記載シ之ヲ保險者ニ提出セサルヘカラス今其體裁ノ一斑ヲ述ヘンニ左ノ如シ

一 當事者

保險契約者被保險者及ヒ保險金受取人ノ氏名時トシテ住所モ共ニ並ニ彼等間

ノ關係

二 被保險利益

被保險者ト被保險物件トノ利害關係ノ證明及ヒ被保險物ノ詳細ナル記載例ヘハ火災保險ニ於テ被保險者ハ被保險家屋ノ所有者ナルコト海上保險ニ於テ荷物ノ荷主タルコト等ヲ記載シ且ツ當該目的物ニ就テハ價格、性質位置等ノ有ラニル必要ナル事項ヲ陳述セサルヘカラス例ヘハ家屋カ火災保險ニ付セラルヘキ場合ニハ其建坪、其構造、其材料其位置、其用途等ヲ精密ニ記載シ之ニ依リテ保險價額又ハ保險金額ノ正當ナルコトヲ證明シ又之カ如何ニ危險ノ程度ニ臨メルヤヲ知ラシメサルヘカラス又生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體ニ關スル總テノ説明即チ年齡、職業、住居嗜好、血族關係、既往ノ病歴、現在ノ健康等ノ外保險者ノ要求スル所ノ事項ニ就テ正直ナル答辯ヲ與フル必要アリ

三 保險料

保險料ハ保險契約者カ提供スルヨリハ寧ロ保險者カ豫メ之ヲ定メテ提出スル所ノモノナレトモ契約者ハ申込書ニ之ヲ記載シテ必ス其金額ヲ支拂フヘシト

レハ同時ニ社會國家アリ即チ兩者ハ之ヲ同時ニ存在セルモノトスルニアラサレハ社會ノ如何ナルモノナルヤハ之ヲ説明スルヲ得サルモノトスルニ至ルニ至リ人類ノ生存ニ必要ナル衣食住ノ關係ヲ規定シ人倫ノ大本ヲ保維シ德教ヲシテ普ク行レシメ法制ヲ以テ嚴ニ守ラシムルハ偏ニ之ヲ國家ノ組織ニ待タサルヘカラス故ニ一己人若クハ會社組合等カ財貨ヲ生産シ消費スルノ能力ハ單ニ其實際有スル所ノ腕力智力等ニ依ルニアラスシテ國家ノ制定シテ之ニ與フル財產制度ニ依ルコト多シ財產法上ノ規定如何ニ由リテ人人ノ經濟上ニ於ケル能力ハ大ニ異ナルモノアリ(三)國家ノ法令ニ反シテ財貨ヲ生産シ使用スル場合ハ(三)人類カ其生存ニ必要ナル需要ヲ充タスニハ必スヤ大體上國家ノ法制ニ據ラサルヘカラス而シテ國家ノ法制ハ勿論國家アルノ前ニ之アルコトナケレハ人類ノ人類タル生活ハ國家アリテ而シテ後始メテ全ヲ得ルモノナリ故ニ經濟上ノ能力即チ一己人又ハ會社組合等カ財貨ヲ生産シ又ハ消費スルノ能力ハ物質的ノ意味ニ於ケル能力ト異ナリ腕力智力等ノミニ據ルニアラス即チ非凡ノ智識腕力ヲ備ヘ苦心經營シテ生産シタル財貨モ國家ノ法制カ一

箇人ノ財產トシテ之ヲ保護スルニ於テ始メテ十分ニ經濟上ニ於ケル能力ノ全キモノタリ若シ各人ノ生産シタル財貨ハ皆社會ノ共有ニ屬スルモノナリトノ財產制度行ハレンカ一箇人ノ經濟上ノ能力ハ誠ニ是レ皆無ナリト謂フヘシ故ニ獨リ腕力智力等ノミカ經濟上ノ能力ヲ確定スルモノニアラスシテ其之ヲ確定スルモノハ國家ノ財產制度ナリ但シ吾人ハ一箇人ノ私有財產ヲ認ムル法制ニ浴スルコト既ニ久シキカ爲メ經濟上ノ能力カ之ニ依リテ定マルコトヲ覺ラサルノミ

經濟學ニ於テ別ニ之ヲ論スルノ必要ヲ見ス(四)加之單ニ人類全體ト人類社會一(四)國家ノ法令ヲ犯シテ財產ヲ使用シ若クハ生産スルノ行爲ハ之ヲ經濟學ノ眼中ニ置カスシテ可ナリ何トナレハ法令德義ノ範圍内ニ於テ行ハルルモノニアラサレハ大體上之ヲ經濟現象トシテ認ムヘキモノニアラサレハナリ例ヘハ竊盜強盜ノ所爲ニ因リ得タル金錢ハ或意味ニ於テハ之ヲ生産ナリト謂フヲ得ヘキモ經濟學ニ於テハ之ヲ生産ト看做テス即チ盜賊ノ所爲ハ勢力ト謂フヘキモノニアラサルヲ以テ之ニ依リテ財貨ヲ得ルモ是レ經濟學ノ論究スヘ

キ範圍ニ外ニ在リテ經濟現象ニハアラサルナリ此ノ如ク經濟上ノ能力ハ國法ノ定ムル所ニ從ハサルヘカラサルカ故ニ若シ土地ハ總テ國家ニ屬シ一私人ノ之ニ對スル所有權ヲ認メサル法令行ハルルニ於テハ土地ニ對スル一私人ノ經濟的能力ハ皆無ナリト謂フヘシ但シ國家ヨリ一時借受ケテ耕作等ヲ爲ス丈ノ能力ハ此限ニ在ラス

般ノ富トノ關係ノミヲ論スルニ當リテハ經濟學ハ特ニ財產制度ノ如何ヲ觀セシテ可ナルヤモ知ルヘカラスト雖モ社會全體ノ富カ如何ニ各箇人並ニ各社會階級ノ間ニ分配サルルヤノ問題ヲ研究スルニ當リテハ是非トモ之ヲ不同ニ措クヲ得ス而シテ方今ノ經濟學ハ往昔ノ經濟學ト異ナリ重キヲ社會一般ノ富即チ富ノ總額ニ置カスシテ寧ロ其各社會階級ノ間並ニ各箇人ノ間ニ分配サルル分量ニ置クヲ以テ茲ニ聊カ財產法ノ規定ヲ論セサルヘカラサルナリ(五)

(五) 財產制度ヲ此所ニ論スルノ必要ハ經濟上ノ能力カ財產制度ノ主義如直ニ由リテ異ナルカ爲メノミ據ルニアラス社會ニ於ケル富ノ總額カ社會一般ノ人ト如何ナル關係アルカ即チ一國ノ上ヨリ言ヘハ一國ノ富ノ總額カ一

國ノ人口全體ニ對シ如何ナル關係ニ立ツヤハ講究スルニ止マル以上ハ經濟學上特ニ財產制度ヲ論スルノ必要或ハ之ナカルヘシ何トナレハ一國ノ富ノ總額其人口ノ割當ツル丈ニテ知ラルヘケレハナリ然レトモ其總額カ各個人及ヒ各社會階級即チ資本家勞力者等ノ間ニ如何ナル割合ヲ以テ分配サルルヤ資本家ノミカ利益ヲ獨占シ勞力者ハ相當ノ利益ヲ得サルニアラシヤ又其ノ得タル利益ハ私有財產トシテ之ヲ所有スルコトヲ得ルヤ等ヲ論スルニハ少クトモ財產制度ノ大要ヲ知リテ之ヲ斟酌セサルヘカラス而シテ現今ノ經濟學ハ社會一般ノ富即チ富ノ總額ニ重キヲ置カス主トシテ其富ノ分配カ如何ニ行ハルルカヲ論スルモノナレハ財產制度ヲ論スルノ必要益々切ナリト謂ハサルヘカラス是レ單ニ生産ノミニ重キヲ置ケル舊派經濟學カ財產制度ニ冷淡ニシテ生産ヨリモ寧ロ分配ニ重キヲ置テ新派經濟學カ之ニ注意ヲ厚ウスル所以ナリ

財產法ニ所謂私有財產ナルモノハ社會ニ存在スル總テノ經濟上ノ財貨ニ對スル一箇人ノ分ケ前ナリ故ニ一定ノ時期ニ於ケル一箇人ノ經濟的能力ハ其保有スル財產權ノ内容ト相均シキモノナリ財產權ノ内容トハ何ソヤ曰ク經濟上ノ財貨即チ是ナリ(一)而シテ一箇人ノ財產權ナルモノハ國家ノ法令ニ依リテ其財(二)財產テフ語ハ權利ヲ指スモノナルコトモアレハ權利ノ内容即チ其目的物タル財貨ヲ意味スルコトモアリ故ニ此所ニハ財產ヲ或ハ權利ト爲シ或ハ權利ノ目的物ト爲スカ如キ混同ノ恐アルヲ避クシカ爲メ權利ノ目的物ヲ意味スルトキニハ財產ト謂ヒ權利其物ヲ指ス時ニハ財產權テフ語ヲ使用ス而シテ私有財產トハ社會ニ存在スル一切ノ經濟上ノ財貨即チ富ノ全體ニ對スル一私人ノ分ケ前即チ其分擔額ナリ故ニ或一定ノ時ニ或一箇人ノ有スル經濟上ノ能力ハ其人ノ有スル財產ニ據レリ

貧上他人ニ對シテ有スル所ノ種種ノ權利ヲ綜合シタルモノニシテ此財產權ノ性質及ヒ之ヲ取得シ讓與スル法式ノ如何ハ皆是レ經濟上ニ重大ナル影響ヲ與フルモノナレハ財產制度ノ經濟現象ニ關スルヤ實ニ大ナリト謂ハサルヘカラスモ公法ノ如キモ重大ナル影響經濟現象ニ反ホスニ相違ナシト雖モ而モ其影響(三)一箇人ノ財產權ナルモノハ單ニ物ヲ所有スル權利ノミニアラス此他ニ

尚ホ種種ノ權利ヲ綜合シタルモノニシテ其内容ハ國法ノ規定如何ニ由リテ異ナルモノナリ即チ財產權ハ一國ノ法令ニ依リテ認メラルヘキ權利ナレハ之カ内容モ亦國法ノ規定ニ依リテ定マルヘキハ當然ノ事ナリ而シテ此權利ノ性質及ヒ得與移轉ハ經濟上ニ密接ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ之ニ關スル制度ハ經濟現象ニ重大ノ影響ヲ及ホスコト明白ナリトス

響ノ大小強弱決シテ財產制度ノ影響ト同日ニ論スヘカラス財產制度ノ大主義ハ公法上ノ變遷政治上ノ變革等ノ屢アルニモ拘ラス百年殆ト同一ニシテ容易ニ動クコトナク經濟社會ニ直接ノ影響ヲ及ホスコト實ニ驚クヘキモノアリ(八)故ニ先ツ經濟上ノ狀態ニ變化アリテ而シテ後始メテ財產法ノ改正サルルコト

(九) 憲法、行政法等モ經濟現象ニ重大ノ影響ヲ及ホスニ相違ナク憲法尙ニ附屬法ノ性質如何ニ由リテ經濟社會ノ影響ヲ蒙ルコトアルハ歷史上著明ノ事實ナリ然レトモ其影響タルヤ財產制度カ經濟上ニ及ホス影響ニ比スレハ誠ニ僅少ナリ何トナレハ公法ノ影響ハ間接ニシテ直接ナラサレハナリ例ヘハ衆議院議員選舉法ヲ改正シテ從來ノ被選資格ハ直接國稅十五圓以上ヲ納ム

ル者タリシヲ五圓以上ト爲シタリトスルモ之カ爲メニ人人ノ經濟的活動ニ差異ヲ生スルハ殆ト稀ニシテ若シ生スルコトアルモ是レ唯一部ノ少數者即チ所謂政治屋連ニ取リテ然ルノミ之ニ反シテ財產制度ハ國民生活ニ密著ノ關係ヲ有シ且ツ何レノ國ノ歴史ニ徵スルモ財產制度一タヒ定マレハ政治上ノ改革公法上ノ變遷アルモ爲メニ容易ニ改正サルルモノニアラス又數多ノ年月ヲ經過シ社會ノ文運進歩スルモ之カ爲メニ根本的ニ改正サルルモノニアラサルカ故ニ經濟社會ニ直接重大ノ影響ヲ及ホスモノナリ

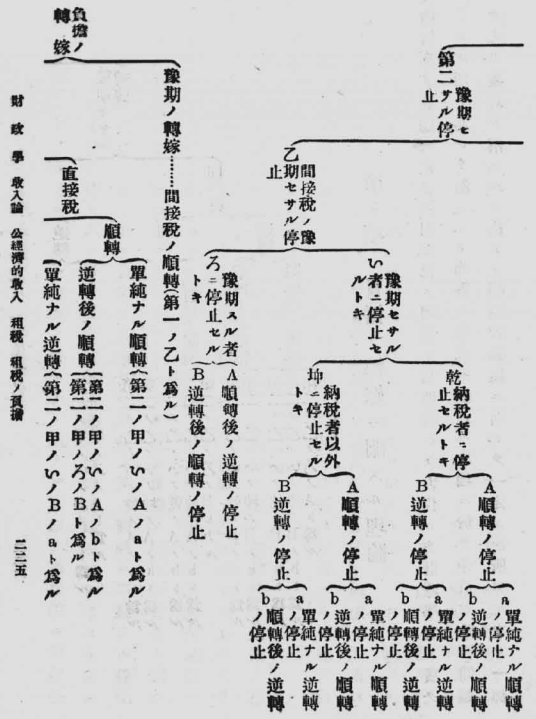
往之アリト雖モ經濟上ノ現象ハ常ニ現在又ハ過去ノ財產制度ニ影響サルルノ大ナルハ毫モ疑フヘカラサル事實ナリ(九)

(九) 財產制度カ經濟上ニ重大ノ影響ヲ及ホスト同時ニ一方ニ於テハ經濟上ノ變動非常ニ劇甚ナル時ハ財產制度ノ改正ヲ促スコトアリテ二者互ニ相影響ヲ遙ニ大ナリトセサルヘカラス

財產法ノ主義ハ之ヲ大別シテ二ト爲ス一ハ綜合主義ニシテ一ハ個人主義ナリ(甲) 綜合主義

綜合主義ハ一ニ之ヲ國家主義ト唱ヘ又社會主義トモ名ク此主義ニ基ク財產制度ノ下ニ立ツ一箇人ハ重ナル貨物ニ對シ唯僅ニ一定時間ノ使用權ヲ有スルノミニシテ之ヲ自由ニ處分シ得ル所有權ハ單ニ公共ノ性質ヲ有スル國家若クハ其他ノ政治團體ノミニ屬ス(○)

(○) 此主義ハ或ハ之ヲ國家主義ト曰ヒ又ハ社會主義トモ名ク此主義ニ據リテ成レル財產制度ノ下ニ於ケル一箇人ハ重ナル貨物ニ對シテ一定ノ期間之ヲ使用シ之ヨリ收益スルノ權利アルモ之ヲ所有スルノ權利ナシ此所ニ重ナル貨物ト云フテ財貨ト云ハサルハ貨物以外ノ經濟上ノ財貨ハ此主義ニ由リテ影響ヲ蒙ルコト甚タ少ク土地トカ資本トカノ如ク貨物ニ付テ之カ影響大ナルヲ見ルヘケレハナリ而シテ此主義ニ據レハ土地ノ如キハ一箇人ノ所有スルヲ得サルモノナリ唯或期間之ヲ使用シ耕作シ又ハ地上ニ家屋倉庫等ヲ建築スルノ權ヲ有スルノミニテ其所有權ハ國家又ハ地方自治體ニ在ルモノトス現今ノ文明國ニ於テハ此主義ヲ絶對的ニ採用スル所ナシト雖モ土地ノ或部分ニ付テハ此制度ヲ用フル所ナシトセス例ヘハ露國ノ或地方





第三項 負擔ノ轉嫁ニ關スル理論

負擔轉嫁ノ問題ハ直接稅間接稅ノ問題ト相關聯シテ古代ヨリ財政學者ノ廣ク研究スル所ト爲レリ然レトモ此等ノ學說ハ多クハ論理ニ於テ矛盾シ論旨錯雜シテ之カ眞理ヲ解スルニ由ナク學說皆區區ニ別レテ一定スル所アルナレ一部

ノ學者ノ如キハ租稅平等波及論ヲ唱ヘ租稅ハ實財ノ移轉ニ伴ヒ漸次取引者全體ニ波及スヘキヲ以テ租稅ノ負擔ハ一定ノ時期ヲ經ルト共ニ全社會ニ平等ニ分擔セラルヘシ換言スレハ租稅ハ各個人其苦痛ヲ免レントスル競争ノ結果遂ニ眞正ノ負擔者ヲ求メテ租稅自然ノ公平ナル歸著ヲ爲スニ至ルヘシト論スル者アリ此等ノ波及論者ヲ首トシ重農學派以後ノ財政學者カ或ハ地主ニ歸著スト曰ヒ或ハ資本家ニ歸著スト曰ヒ其他種種ノ意見ヲ主張スル者多キモ總テ負擔ノ問題ニ付テ幾多ノ誤謬ヲ爲ササルモノ尠シ

負擔ノ轉嫁ニハ絕對ナル轉嫁ナシ甲カ今百圓ノ負擔ヲ受ケ其百圓ノ負擔ヲ乙ニ轉嫁スルニハ期間ノ經過ヲ要ス隨テ單ニ百圓ノ負擔カ乙ニ轉セラレタルヲ以テ甲ハ全ク負擔ヲ免レタリト謂フコトヲ得ス甲ハ少クトモ其期間内百圓ニ相當スル利息ノ損失ヲ負擔セルモノナレハナリ故ニ負擔ノ轉嫁カ複雜ト爲ルニ隨ヒ時期ノ經過スルト共ニ負擔ノ種類反ヒ總額カ又ハ同時ニ錯雜ナル變化ヲ來スヘキコトヲ記憶セズンバアラズ茲ニ租稅ノ負擔問題ニ付キ之ヲ各種ノ租稅ニ照應シテ研究スルコトハ時日ノ許ササル所ナルヲ以テ抽象的ニ租稅全

般ニ通シ轉嫁ニ關スル理論ヲ略述スヘシ

負擔轉嫁ノ理論ニ付テハ殆ト探ルニ足ルヘキモノナシ「コーン」バスタープルト「
氏」ノ分類ハ比較の勢力ヲ有スルモノナルヲ以テ二氏ノ理論ヲ左ニ列記スヘシ「

「コーン」ハ負擔轉嫁ノ原因ヲ

- (一) 負擔分配ノ不公平ニ對スル觀念
 - (二) 不公平ナル負擔ヲ避ケントスル願望
 - (三) 此目的ヲ達シ得ヘキ金錢上ノ能力
ノ三者ト爲シ「バスタープルト」
 - (一) 運動力ノ存否
 - (二) 需用ノ法則
 - (三) 課稅ノ方法
 - (四) 産業ノ組織及ヒ其分科
 - (五) 稅額
- ノ五者ト爲セリ「コーン」ノ說ハ比較の理論ニ適ヘルモノナルヲ以テ之ヲ參照ト

爲シ自己ノ見解ヲ略述スル所アルヘシ

經濟上ノ現象尙ホ廣ク解釋シテ社會上ノ現象ニ通スル根底ノ理想ハ利己心ナ
リ負擔轉嫁ノ問題ニ於テ根底ト爲ルヘキ原因ハ各自負擔ヲ苦痛トシテ之ヲ免
レントスル動念アリ故ニ負擔轉嫁ノ問題ハ第一負擔ヲ免レントスル動念第
二負擔ヲ除却スル實力ノ二點ニ歸著セスンハアラス

第一 負擔除却ノ動念 負擔除却ノ動念ハ主トシテ(甲)負擔ノ輕重及ヒ不公平
ニ對スル主觀的の感覺(乙)負擔ノ隨伴スヘキ欲望ヲ満足セントスル願望ノ二者ニ
因リテ消長セラルルモノナリ

(甲) 負擔ノ輕重及ヒ不公平ニ對スル主觀的の感覺ハ又主トシテ稅目ノ多少、稅率
ノ輕重、負擔徵收ノ方法ノ如何ニ因リテ變化スルモノナリ

(乙) 負擔ノ隨伴スヘキ欲望ヲ満足セントスル願望ハ又主トシテ左ノ諸原因ニ
因リテ消長スヘシ(イ)習慣力(ロ)德義心(ハ)負擔ノ隨伴スヘキ欲望ノ満足ニ因リテ
受クル利益ノ多少(ニ)負擔ノ隨伴スヘキ欲望ノ満足ヲ廢止スル難易(ホ)負擔ノ隨
伴スヘキ欲望ニ代ルヘキ欲望ノ存在ノ有無及ヒ之カ満足ノ難易

第二 富者カ貧者ニ勝テ智者カ愚者ヲ制スルハ社會ノ現象ニ通スルノ原則ナリ隨テ立法者カ地主家屋所有者資本家營業家等ニ直接ニ之カ負擔ノ停止ヲ豫期シ又理論上他ニ轉嫁スヘカラスト爲ス地租家屋稅資本稅營業稅等カ事實小作人借家人勞働者得意先ノ多數ノ弱者ニ轉嫁セララルルハ一般ニ認メララルル所ニシテ近時社會政策カ財政問題ニ於テ勢力ヲ有スルニ至リタル一ノ原因ナリトス

第三編 收支適合論

第一章 總論

第一節 收支ノ不適合

第一款 緒論

財政ノ要ハ出ルヲ計リテ入ルヲ制スルニ在リ隨テ財政ノ整理ニハ收入ト支出カ相平均シテ其間ニ過不及ナキコトヲ要ス故ニ收支ノ適合ヲ期シ財政ノ權衡

ヲ保持センニハ當局者ハ一定ノ時期ヲ畫シテ會計期ト爲シ其期間内ノ財政計畫ヲ立テ收入支出ノ種類及ヒ數額ヲ彙類區分シテ收支ノ平均ヲ保持スルニ必要ナル基礎ヲ確定スルコトヲ要ス此財政計畫ハ通常豫算ノ編成トシテ現ハルルモノニシテ通常會計期間ヲ一箇年トシテ會計年度ト稱シ收入支出モ亦歲出歲入ト稱セララル

然レトモ複雜ナル國家ノ行政ハ將來ニ於ケル客觀的事情ノ變遷ニ伴ヒ固ヨリ單純ナル理想ヲ以テ之ヲ律スヘカラス隨テ豫算ハ所期スルカ如ク收支ノ權衡ヲ正確ニ保持シ難ク或ハ歲計ニ剩餘ヲ生シ或ハ不足ヲ告タルコトヲ免レズ此豫算ヲ少カラシメントスル積極的方法ハ豫算ノ編成ニシテ歲計論ニ屬シ其發生シタル豫算ヲ調和シ之ヲ救正スヘキ積極的方法ヲ研究スルハ收支適合論ノ目的ニシテ或ハ財政權衡論ト曰ヒ或ハ其救正方法ノ基礎ヨリ觀察シテ國家信用論ト曰ヒ或ハ其重ナル救正方法ノ名稱ヲ借リテ國債論ト稱ス然レトモ後ノ二者ハ其範圍ニ於テハ固ヨリ收支適合論ノ一部ニ屬スヘキコト言ヲ缺タサルナリ

私人經濟ニ於テハ其收入ノ種類多ク、單一ニシテ其數額モ亦一定セルモノ、多キノミナラス其一定ノ收入額ヲ限度トシテ便宜支出額ヲ比較的の自由ニ斟酌シ得ヘキモノナルヲ以テ豫算ノ齟齬ヲ來タスコト少カルヘキモ公共經濟ニ於テハ其收入ノ種類複雜ニシテ官有財産ノ收入官業ノ收入手數料及ヒ租稅中稅表ニ依ル租稅收入主トシテ間接稅ノ收入ハ皆社會現象ノ變化ニ伴ヒテ増減シ財政家ニ於テ左右シ得ヘキ定額ノ收入ハ殆ト臺帳ニ依ル租稅收入(主トシテ直接稅ノ收入)ノ一部ニ限ラレ(人頭稅、地租等)ノ類ニシテ所得稅等ニ至リテハ其收入額ヲ豫定スルコト難シ)一方ニハ歳出ノ各款項ハ收入額ヲ限度トシテ自由ノ斟酌ヲ許スコト無ク常ニ歳出ノ臨時増加ヲ要スヘキヲ以テ公共經濟ニ於テ豫算ト決算ト不適合ヲ來タスヘキハ其本然ノ性質ニ屬スルモノナリトス

第一款 剩餘ヲ生スル場合

歳計ニ剩餘ヲ生セル場合ハ當ニ事實トシテ稀ニ生スルモノナルノミナラス此

カ救正ノ方法モ又甚タ容易ナルモノナリトス若レ其剩餘ニシテ比較的ノ久留性質ヲ有スルトキハ或ハ租稅中比較的の惡稅ト認ムヘキモノヲ廢シ又ハ重稅ノ稅率ヲ低減シ經常ノ收入ヲ減少シテ民力ノ休養ヲ計ルヘク若レ其剩餘ニシテ一時ノ性質ヲ有スルトキハ其額ノ多少ニ應ジテ或ハ公債ノ償還民有財産ノ買上、官業ノ設備擴張等臨時ノ積極又ハ消極ノ支途ニ充ツルコトヲ得ヘシ
公共經濟ニ於ケル歳計ノ不足ハ又一方ニ於テハ或程度迄ハ豫算ノ編成ニ際シ歳出ヲ高ク見積リ歳入ヲ過大ニ爲スコトニ依リ之ヲ避ケルコトヲ得ヘシ隨テ不足財政策ト剩餘財政策ト何レカ理論實際ニ協ヘルヤハ又財政上ノ一問題ナリ然レトモ財政ノ要ハ收支ノ適合ニ在リテ剩餘多キニ過クルバ不足多キニ過クルト同一ノ非難ヲ免ラサルハ財政學總論ニ於ケル財政ノ特質ニ於テ既ニ論述セル所ナリ而シテ不足ノ臨時ノ支出ニ基ク場合ハ毫モ財政上ヲムヘカラサルニ反シ剩餘ノ多キニ失スル場合ハ少クトモ財政關連ニ對スル非難ヲ免ルルコト克ハサルヘシ

「アダムス氏ハ左ノ三點ヲ以テ剩餘財政策ヲ絶對ニ非認セリ」

第一 歳計ノ不足ハ國民ヲシテ憲法上有スル財政監督ノ大權ノ行使ヲ慎重ナラシメ歳入ノ剩餘ハ財政ノ監督ヲ忽ニシ年過大ノ支出ヲ來タスニ至ルハ千八百六十年以降千八百八十二年ニ至ル合衆國ノ財政史ニ徴シテ明カナル處ナリ

第二 歳計ノ不足ハ議會ヲシテ該年度ノ支出豫算ヲ再ヒ審査檢閲セシメ延テ翌年度ノ豫算ノ議定ニ慎重ナル注意ヲ與フルニ至ラザルモノナリ

第三 歳計ノ剩餘ハ民間ニ於ケル通貨ノ流通額ヲ減少シ産業社會ヲ動搖セシムルノ憂アリ但シ其剩餘ヲ公債ノ償還ニ充ツルトキハ市價ニ影響ヲ及ボスコト少カルヘキモ若シ公債ノ償還ニ充ツルコト無キトキ、通貨ノ減少縱令久シキニ且ラサルモ起業家ハ通貨減少ノ影響未タ一般ノ市價ニ及ハサルニ先チ已ニ之ニ依リテ生ズル弊害ヲ感スルニ至ルヘシ

第三款 不足ヲ生ズル場合

歳計ニ不足ヲ生ズル場合ハ事實トシテ最モ生シ易ク且ツ此カ救正ノ方法又困難ニシテ財政上最モ重要ナル事項ニ屬シ其不足額巨大ナルトキハ其措置ノ如何ハ財政ノ紊亂ヲ來シテ積年ノ累ヲ醸成シ甚シキハ一國ノ生存ヲ危クスルニ至ルコト古來其例乏シト爲テ今不足ヲ生ズル場合ヲ其性質ヨリ分類スレハ之ヲ次ノ二者ニ分ツコトヲ得ヘシ

第一 金庫上之不足

第二 真正之不足

第一 金庫上之不足トハ單ニ金庫ノ上ニ於テ或時期ヲ限リ不足ヲ來スルニシテ會計年度ノ末ニ於テハ結局違算ヲ生ズルコトナキモ一時收支ノ時期又ハ數額カ豫期スル所ニ違フヨリ生ズル一時ノ不足ナリ即チ一會計年度内ニ於テ甲收入ノ時期カ豫定ノ時期ヨリ遅ルルカ乙支出ノ時期カ豫定ノ時期ヨリ早キカ丙豫定ノ時期ニ於ケル收入額カ豫定額ヨリ少キカ丁豫定ノ時期ニ於ケル

支出額カ豫定額ヨリ多キニ基因スルモノニシテ此場合ハ所謂表面上ノ不足又ハ假面上ノ不足ト稱セラレルモノニシテ我國ノ租稅收入ニ於テハ一定ノ時期ヲ限ラシテ時時ノ收入アル間接稅ヲ以テ歳入ノ大部分ヲ占ムル英國等ト異ナリ政府收入ノ過半ハ直接稅ニ依ルヲ以テ收入ノ時期一定シ金庫上ノ不足ヲ生スル場合比較的多シ而シテ此カ救正策トシテ租稅ノ納期ヲ改正シテ此カ不足ヲ生セサラシメンコト難キニ屬スルヲ以テ納期ハ被稅者ト課稅物件ノ關係及ヒ性質ヨリ財務行政上容易ニ變更ヲ許スヘキモノニ非サルノミナラス一方ニ納期ヲ改正スルトモ支出ノ時期又豫定スヘカラサルモノ多ケレハナリ政府ハ其信用ヲ利用シテ一時資本ヲ借入ルルヲ常トシ其多クハ中央銀行ノ力ヲ借ルモノニシテ短期ノ借入又ハ大藏省證券ヲ發行等ニ依リテ之カ一時ノ不適合ヲ救正スルヲ例トス其大藏省カ賣ヲ負フテ國家ノ信用ヲ利用シ未タ政府全體ニ關係ヲ有セサル點ニ於テ學者或ハ財政信用又ハ財政上ノ公債ト曰ヒ又財政官衙カ政府ノ費用ノ融通ヲ營ムモノト觀テ營業的信用又ハ營業的公債ト稱スルコトアリ其細論ニ至リテハ別ニ國債分類ノ章ニ於テ述フル所アルヘシ

第二 真正之不足トハ一會計年度ニ於テ收入ノ支出ヲ充タスルニ足ラサル場合ニシテ或ハ收入額カ豫期ニ合スルモ支出額豫定額ヨリ多キニ過クルカ爲メ之カ不足ヲ來シ或ハ支出額豫期ニ合スルモ收入額豫定額ヨリ少キニ過クルカ爲メ之カ不足ヲ來スモノニシテ事實ニ於テ前者ハ最も多ク發生シ其不足額又著シク巨額ニ上ルヲ例トナスモノナリ而シテ其支出超過ヲ來ス重ナル理由ハ戰亂天災等ノ緊急ナル事變ト政治經濟上ノ起業トノ二種ニシテ前者ノ不足ヲ充タス爲メ起債スル公債ハ通常消費公債ト稱シ後者ノ不足ヲ充タス爲メ起債スル公債ハ通常起業公債ト稱セラレ

學者又別ニ經濟上之不足ナルモノヲ舉クル者アリ所謂經濟上ノ不足トハ政府カ經營スル所ノ有形無形ノ生産ハ國民カ支出スル所ノ經濟上ノ價值ニ比シテ及ハサルヲ謂ヒ結局政府カ國民ニ賦課セル額ニ比シテ其效果ノ小ナルヲ指スモノナリ故ニ一方ニハ國家ハ荷重ノ負擔ヲ課シテ一方ニハ其收入ヲ不生産的ニ支出スルトキハ遂ニ民力ノ疲弊ヲ來シ真正ノ不足又ハ之ニ伴フニ至ルヘシト言フニ在リ私見ヲ以テスレハ經濟上ノ不足トハ政府ノ經費ノ

生産のナルヤ不生産のナルヤト云フコトヲ半面ヨリ觀タル結果ニシテ唯一ハ結果ヨリ一ハ原因ヨリ觀タルモノナリ故ニ理論上不生産の經費ハ縱令收入ノ支出ニ超過スルモ結局經濟上ノ不足ヲ生セリト謂フコトヲ妨ケサルト共ニ生産的經費ハ縱令支出ノ收入ニ超過スルアルモ結局經濟上ノ不足ヲ生セリト謂フコトヲ得サルナリ要之此用語ハ學科ノ上ヨリ觀ルモ必要少キト共ニ事實ニ於テハ此カ有無程度ノ如何ハ之ヲ付度スルニ由ナキモノナルヲ以テ此ニ之ヲ認メス

真正之不足ニ對スル救正ノ方法ハ金庫上ノ不足ノ場合ニ比シ著シク困難ナルモノニシテ其不足カ恒久ノ性質ヲ有スルモノナルトキハ此ヲ填補スルニ臨時ノ收入ヲ以テシ苟且偷安一時ヲ塗抹スルカ如キハ財政學ノ原則ニ違反スルモノニシテ益財政ノ紊亂ヲ助長シ遂ニ收拾スルコト能ハサルニ至ルモノナリ故ニ此カ救正方法トシテ消極的ニハ成ルヘク經常支出ノ節約ヲ行ヒテ民力ノ充實ヲ計リ積極的ニハ其不足ノ經費ヲ支辨スルカ爲メ私人經濟的收入トシテハ官有財産又ハ官業ノ改良擴張ヲ計リ公共經濟的收入トシテハ手數料租稅ノ

改正ヲ期スル等又經常收入ノ増加ニ依ラスンハアラス而シテ理論ニ於テモ亦實際ニ於テモ主トシテ取ルヘキ方法ハ新稅ヲ起スカ又ハ在來ノ租稅ノ稅率ヲ高ムルニ存シ隨テ此等ノ問題ハ租稅政策ノ範圍ニ屬スルヲ常ト爲スモノナリ一時限リノ支出ニ屬スヘキモノニシテ而モ何レノ會計年度ニ通スルモ規則正シク或種類ノ行政事務ニ附帶シテ其年年要スヘキ經費モ大體ニ於テ之ヲ豫算ニ見積ルコトヲ得而モ其額ノ少額ニ止マルモノアリ例ヘハ公用家屋道路等公有物ノ設備修繕ニ要スル經費ノ如シ此等ハ箇箇獨立ニ觀レハ又一時限リノ經費ト觀ルコトヲ得ヘキモ財政上此ヲ經常不足ト觀ルヲ正當ト爲スモノナリ

真正之不足ニシテ一時ノ性質ヲ有スルモノ即チ臨時ノ不足ト稱セラルルモノハ交通機關ノ設備軍備ノ擴張編制其他司法行政立法法等ノ大改革等ニ伴ヒテ發生スルコト多ク殊ニ天變地異交戰擾亂等絕對ニ豫期スヘカラサル支出ニシテ之ニ要スヘキ經費ノ支辨ニ時日ノ餘裕ヲ許ササルモノアリ此等ノ場合ニ在リテハ分捕品賦納金又ハ剩餘金ノ繰出ニ依ルカ如キハ全ク偶然姑息ノ策ニシテ

此カ救正ノ方法トシテ認ムヘキモノハ要スルニ次ノ四種アルニ過キス

- 第一 官有財産ノ拂下
- 第二 非常準備法
- 第三 租税ノ新設又ハ税率ノ増加
- 第四 公債ノ借入又ハ募集

第二節 臨時ノ不足ニ對スル救正方法

第一款 官有財産ノ拂下

官有財産ノ重ナルモノハ田地ト森林ナリ而シテ田地ハ其經營ノ方法カ直接管理法タルト委任管理法タルト將タ小作法タルトヲ問ハス現時一般ニ政府ノ經營ヲ以テ不得策ト爲スヲ通説ト爲シ又一方ニハ森林ハ治水其他ノ理由ヨリ保安林ノ如キ政府ノ手ニ買收シテ猶ホ此カ經營ノ衝ニ當ルヘキモノアルコトハ官有財産ノ章ニ於テ詳論セル所ナリ隨テ現時一般ニ非常ノ支出ヲ辨スルニ足ルヘキ財産無キカ爲メ絶對ニ不能ナルヲ常ト爲シ縱令事實此等ノ財産

剩アリトスルモ田地森林ノ類ハ此カ移轉融通ニ不便ナルヲ以テ一方ニハ巨額ノ賣ヲ投シテ此ヲ購入スル者甚タ稀ナルヘク一方ニハ其財産ノ巨多ニシテ且拂下ノ必要大ナルカ爲メ其拂下價格ハ必ス相當代價ヲ下ルコト著シカルヘク加フルニ事實急速ノ需要ニ應スルニ難キヲ以テ又相對ニ不能ナルモノナリトス故ニ非常費支辨ノ方法トシテ理論上主張スル者無ク又現時實際ニ此方法ヲ取ル者ナキニ至レリ

第二款 非常準備法

非常準備法トハ居常金銀其他ノ貨財ヲ蓄積シテ一朝非常ノ需要アルニ際シ之ニ應スルノ準備法ニシテ信用經濟ノ行ハレサリシ時代國家觀念ノ未タ發達セザリシ時代換言スレハ租税ノ徵收公債ノ募集ノ如キ仍ホ充分ニ行ハレザリシ時代ニ在リテハ一朝有事ノ際非常準備法ノ設備ナキニ於テハ他ニ之ニ應スルヘキ政策存セザリシヲ以テ其體様ニ於テハ時ト處ニ由リ多少其趣ヲ異ニスルアルモ何レモ皆斯法ノ精神ヲ取ラサルモノ無カリシモノノ如シ

後アルニ希臘時代ニ在リテハ亞典政府ハ波斯戰爭紀元前四百九十年トモロ
 ポキチナス戰爭紀元前四百四十六年トノ間ニ一萬、クエン、ト、マ、シ、ト、凡
 約二、千、一、百、八、十、間、餘、ニ、當、ル、テ、貯、蓄、シ、波、斯、ニ、於、テ、モ、シ、ラ、ニ、天、主、以、後、鉅、萬、ノ、軍
 用、金、ヲ、蓄、積、シ、歷、山、大、王、波、斯、征、討、ノ、際、之、ヲ、略、取、シ、得、後、マ、セ、ド、ニ、テ、帝、國、ノ、準、備
 金、ノ、殘、部、ハ、又、羅、馬、ノ、將、軍、ポ、ー、ロ、ス、エ、ミ、リ、オ、ス、ノ、略、取、ス、ル、所、ト、爲、レ、リ、又、羅、馬
 帝、國、時、代、ニ、在、リ、テ、ハ、オ、ウ、ル、ム、ウ、イ、セ、シ、マ、リ、ウ、ム、ト、稱、シ、奴、隸、ノ、身、受、金、ニ、五、分、稅、ヲ
 課、シ、其、收、入、ハ、屬、邦、ヨ、リ、納、ム、ル、貢、金、敵、國、ノ、分、捕、品、等、ト、併、セ、テ、ナ、ト、ル、ン、テ、殿、堂
 ニ、蓄、積、シ、タ、リ、其、後、オ、ー、グ、ス、ワ、ス、ノ、タイ、ベ、リ、ア、ス、ニ、ウ、エ、ス、バ、シ、ア、ン、ノ、諸、帝、又、非、常
 準、備、金、ヲ、貯、蓄、シ、タ、リ、佛、國、ニ、在、リ、テ、モ、フ、ラ、ン、ク、時、代、ミ、ツ、タ、ル、ア、ル、テ、ル、ラ、通、シ
 歴、代、ノ、諸、王、非、常、準、備、金、ヲ、貯、蓄、シ、普、魯、西、ニ、在、リ、テ、ハ、フ、リ、ド、リ、ツ、ヒ、ツ、キ、ル、ル、カ
 ム、八、百、七、十、萬、タ、ー、レ、ル、フ、準、備、ラ、有、シ、フ、リ、ド、リ、ツ、ヒ、二、世、ノ、朝、ニ、ハ、舉、ケ、テ、此
 ヲ、窮、盡、セ、シ、モ、爾、後、此、ヨ、リ、巨、額、ノ、準、備、ヲ、見、ル、ニ、至、レ、リ、歷、史、家、ノ、說、ニ、據、レ、ム、六
 千、乃、至、七、千、萬、タ、ー、レ、ル、ニ、上、リ、タ、リ、レ、ト、云、ヘ、リ、東、洋、ニ、在、リ、テ、ハ、支、那、ハ、歷、代、興
 亡、盛、衰、常、ナ、カ、リ、レ、ト、共、ニ、常、ニ、非、常、準、備、法、ヲ、存、セ、シ、ハ、史、乘、ノ、證、ス、ル、所、ナ、リ、取

諸邦ニ在リテモ古代實物經濟時代ニ在リテハ政府ハ各種ノ官有財産ヲ以テ非
 常準備ニ充テ又大寶令ノ頒ニハ別ニ義倉ノ制アリ一位以下百姓ニ至ルマテ
 上上戸ハ二石、上ノ中戸ハ一石六斗等以下其間ヲ九等ニ別テ粟又ハ其他ノ穀
 類ヲ田租ト共ニ納メシメ貯藏シテ凶歉ノ患ニ備ヘシメタリ其數途ノ一定シ
 テ救恤行政ニ關聯スルモノナレトモ又非常準備法ノ精神ヲ取リシモノナリ
 降リテ豐臣秀吉カ臣額ノ金塊ヲ大坂城内ニ貯藏セシメ如キ徳川家康カ金法
 馬ト稱スル分銅形ノ金塊ヲ造リ一代毎ニ一箇宛後世ヲ遺サシムルコトヲ遺
 訓セシカ如キ又非常準備法ヲ執レルモノト謂フヘキナリ
 然レトモ方今信用經濟ノ發達セル經濟界ニ在リテハ資本ノ融通ノ便益又古代
 ノ比ニ非サルヲ以テ殆ト非常準備法ヲ取ルノ必要ナク各國又此制ヲ採用スル
 處ナシ唯歐洲ニ在リテハ普魯西及ヒ寸抹ニ於テ猶ホ新法ヲ存スル在リ即チ普
 魯西ニ在リテハ「フ、リ、ド、リ、ツ、ヒ、ウ、キ、ル、ム」以後歴代ノ君主巨額ノ準備ヲ貯
 蓄シ一千八百七十年ノ役佛國ト戰フテ巨額ノ債金ヲ得ル其五十億百兆
 内一億五千萬フランヲ割キテ此準備金ニ繰込テ一千八百七十六年ノ統計ニ據

レハ其總額ニ億一千一百萬弗ニ達シ而モ其内譯ニ千六百萬弗ハ外國ノ有價證券ヲ以テシテ六千五百萬弗ハ自國ノ鐵道公債ヲ以テシ眞ニ非常準備ノ目的ヲ達シ得ヘキモノ即チ正金トシテ保存スル額ハ三千萬弗ニ過キスト云フ昨泰子ノ記憶スル所ニ據レハ我政府モ日清戰爭ヲ收養償金ノ殘額中異途ノ確定セザルモノ七千五百萬圓ヲ非常準備金トシ平時ハ以テ軍艦補充教育救恤等國費ノ一部ニ供シ一朝事變アレハ以テ戰爭準備金ニ充テシモノノ如ク隨テ本論ハ既ニ學說實際共ニ消極說ニ一致セルモ茲ニ少シク論述スル所アルヘシ

非常準備法ニ對スル消極說ノ大要ヲ述ブレバ第一政治上ヨリ觀察スレバ常ニ施政者ノ專斷放恣ヲ誘導シ濫用浪費ノ弊ニ陥リ易ク非常ノ支出ヲ填補スルニ足ルヘキ準備金ノ存在ハ一方ニハ不急ノ事業ヲ起シ又ハ無謀ノ戰端ヲ開ク等不生產業ニ費消スルノ機會ヲ與フルコト多キハ普魯西其他ノ歴史ニ於テ證明スル所ニシテ國家ノ行政機關ヲシテ巨額ノ資金ヲ所有セシムルニ依リ政府ヲシテ國民ヨリ獨立セシメ國民ノ監督最モ必要ナル時機ニ於テ監督ノ效果ヲ減失セシムルモノナリトス第二財政上ヨリ觀察スレバ非常準備金ノ本旨ハ非

常ノ支出アルニ際シ直チニ此ヲ填補スルニ在ルヲ以テ正貨トシテ存スルニ費スルハ特ニ斯法ヲ設ケン精神ヲ達スルコト克ハス故ニ收益ヲ計リテ此ヲ市場ニ投下スレハ一朝有事ノ際之ヲ政府ノ手ニ回收スルニ由ナク又有價證券トシテ存スレハ必要ノ場合ニハ又此ヲ市場ニ買却セシムルハアラス隨テ其價格ノ低落スルハ固ヨリ其手數煩勞時間ヲ浪費シテ徒ラニ經濟市場ヲ擾亂シ而モ斯法設定ノ目的ヲ達スル克ハサルモノトス若シ正貨トシテ倉庫ノ裡ニ貯藏セラレシカ徒ラニ活物ヲ死物ト爲スノ愚ヲ學ヒテ一方ニハ巨額ノ流動資本ヲ吸收スル結果トシテ金融ヲ逼迫シ產業ノ發達ヲ阻碍スル場合モ亦少カラサルヘシ

日耳曼ハ五年間ニ七億六千フランヲ不生產業ニ浪費セリ一方ニ巨額ノ有價證券ヲ買収ハ其後ノ賣出ニ因リテ其下落ヲ贖シ物價ノ騰貴ヲ來レ又商業ノ紊亂ヲ來セリ若シ日耳曼政府カ正金ノ受取額ヲ戰爭費用ヲ償フテ限度トシ其他ハ佛國ノ公債證書ヲ以テスレハ日耳曼ハ爲メニ市場ヲ擾亂スルコトナクシテ永ク敵國ノ膏血ヲ絞リ佛國モ亦爲メニ財政整理ノ反動力ヲ挫折セ

シメシナラン千八百七十年ノ役ハ兵力ニ於テハ普ハ備ニ勝テ財政ニ於テハ佛ハ普ニ勝テタリ云云ト云ユ氏財政學卷一第三章非常備金ノ一節ニ於テハ第三經濟上ヨリ觀察スレハ産業ノ進歩國力ノ増進ニ必要ナル資本ノ一部ヲ政府ノ手ニ吸收スルニヨリ經濟自然ノ發達ヲ阻碍シ物價ノ騰貴金融ノ逼迫ヲ來スノ通弊ニ陷ルヘキハ平時人民ヨリ賦課徴收セテ準備金ヲ積立ル場合ニ於テハ殊ニ看易キ弊害ナリトス但シ非常準備法ニシテ償金其他臨時ノ收入ニ依ル場合ハ經濟上ノ弊害少カルヘク一國開戦ノ場合ノ如キハ其準備セル正金ヲ國內ニ消費スルコトハ國民經濟ノ活動ヲ保持スルカ爲メ却テ經濟界ニ裨益ヲ與フルモノニシテ産業上國民ノ蒙ルヘキ擾亂ヲ救済スルニ多少ノ效驗アルヘシ是レ臨時收入ニ依ル非常準備法ノ特徴ニ非サルモ此場合ニハ經濟界ニ必須ナル國內ノ流動資本ヲ吸收セルモノニ非サルカ故ニ其弊害無クシテ利益ノミヲ享有スルコトヲ得ヘキナリ

要之非常準備金ノ方法ハ財政上經濟上非難多キノミナラズ政治上行政上事實濫費ニ終ルコト多シ換言スレバ非常準備法ハ其目的達セラルルモ弊害之ニ過

キ又其目的達セラルルコト少ナク償金等ノ臨時收入ニ對スル手段トシテハ非難スヘカラサルモ平時國民ヨリ賦課徴收スル收入ヲ以テ充ツルニ至リテハ何レノ方面ヨリ觀察スルモ絶對ニ是認スヘカラサル方法ト謂ハスルハ非ラス况ヤ現時特ニ此非難多キ方法ヲ執ランヨリモ他ニ奏效ノ確實ナル方法完備セルニ於テヲヤ即チ我邦ニ於テモ年或程度迄臨時急速ノ需要ニ應スル爲メ憲法第六十九條ヲ以テ

豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第一條ヲ設クテ明治二十二年法律第四號會計法第七條及七第八條同年勅令第六十六號會計規則第二章第五款豫備金ノ支出ニ關スル九箇條ヲ以テ其手續ヲ規定シ一方ニハ凶荒不慮ノ災害ニ對スル非常準備策トシテハ明治十三年布告第三十一號ハ備荒儲蓄法ヲ制定シテ中央及ヒ府縣ノ儲蓄金制ヲ定メ猶ホ上述ノ手段ヲ以テ處理スルコトヲ得テ爾緊急ノ場合ハ憲法ハ第七十條第一項ニ

公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府

大帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキ以テ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルニシテ其ノ際ニ於テ國債ノ發行ハ其ノ最モ重要ナル一手段ナリ又戰時等ニ在リテ之カ需要ヲ満足スルニ足ルヘキ巨額ノ經費ヲ正金ニテ貯藏モンコトハ殆ト事實不能ニ屬スルモノト謂ハスシムアラズ其ノ際ニ於テ國債何レヲ可ナリト爲スヤニ在リ「ボリユー」氏其他有力ナル財政學者ノ論スル所ニ據レハ多ク外國債ヲ以テ勝レリト爲スモノノ如ク今所論ノ大要ヲ述ブシム内國債ヲ購入スルトキハ其資本ヲ輸出スルノ憂ナク一國流動資本ノ額ヲ減少スルコトナシト雖モ元來此準備タル非常ノ支出ニ備フルモノナルヲ以テ非常ノ場合ニ當該國ノ公債下落スルコトハ當然ノコトナリトス若シ一方ニ外國債ヲ以テセハ一時資本ヲ外國ニ輸出スルノ不利アレトモ此準備ニ充ツル金額ハ歲入ノ殘餘又ハ不時ノ收入ヲ以テ充ルカ故ニ別ニ費途アルニ非ス隨テ之ヲ輸出スルモ甚シキ損害アリト謂フコトヲ得ス況ヤ其債却ニ因リテ其元金ヲ

回收スルニ於テヲ加フルニ内國債ノ利子ハ政府歲入ノ中ニ編入スル雖モ是レ即チ國民ノ拂フ所ノ税金ナリ外國債ノ利子ニ至リテハ全ク外國ヨリ得ルモノナリ而シテ一朝事變アル場合ニ在リテモ外國債ハ敗北スヘシト思惟セラレタル敵國ノ公債ナルカ其他ノ特別ノ場合ノ外ハ爲メニ下落スルコトナシ云云ト云フニ在リ私見ヲ以テスレハ第一ニ非常準備金ヲ認メス第二ニ之ヲ認ムルモ公債等ヲ以テ所持スルトキハ名ハ非常準備金ナリトスルモ實ハ其用ヲ充タス克ハナルモノナルヲ以テ此場合ハ非常準備ノ爲メ何レカ效果アルヤ否ヤノ問題ハ先ツ以テ論點外ニ置クヘキモノト信ス隨テ本問ノ場合ノ如キ當時當該國ノ金融界ノ狀態財政等ノ形勢如何ニ由リ絕對ニ此ヲ論斷シ難キモ利子ノ高低ヲ標準トシ結局利益ノ大ナル方ヲ取ルヲ可トスルモノナリ故ニ今我邦等ニ在リテハ名ハ非常準備タランモ平時戰時東西同時ニ其目的ヲ達センコトハ事實不能ニ屬シ其額又些少ナルモノナレバ宜シク公債ヲ購入スヘク又其公債ハ我内國債ハ外國債ニ比シテ利子ノ大ナルヲミナラス其計算移轉等手續ニ

於テ又内國債ヲ以テ便ト爲ヌヲ以テ宜シク内國債ヲ購入スルヲ以テ勝レリト
信ス非常準備ノ目的ニ副フヤ否ヤハ既ニ前提ニ於テ予ノ執ラサル所ナリ

第三款 租稅ノ増徴ト公債ノ募集

臨時費支辨ノ方法トシテ官有財産ノ拂下又ハ非常準備金ノ不可ナルコトハ上
述スル所ノ如シ面シテ租稅ノ新設又ハ増率ヲ可トスルカ或ハ公債ノ借入又ハ
募集ヲ可トスルヤニ至リテハ利害關係複雜シテ絶對ニ之カ是非ヲ論斷シ難キ
所アリ學說モ亦多岐ニ分レテ一定スル所アルヲ見ス今便宜ノ爲メ茲ニ併セ論
シテ其利害ヲ對照シ此カ大體ノ概念ヲ述ヘントス

公債ハ正宗ノ刀ナリ其銳利鐵ヲ斷ツニ足ルト共ニ其濫用ハ又甚シキ害毒ヲ醸
シ又其濫用ヲルル機會少シト爲ササルナリ公債ノ弊害ハ公債其モノニ存セス
シテ之カ使用方法ノ誤マラレ易キニ在リ公債ノ募集ハ政府ノ浪費ヲ誘引シテ
行政ノ弛廢ヲ來スト曰ヒ租稅ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ公債ニ依ルハ政府好
ムク損失ヲ招クモノナリト曰ヒ公債ハ現世ノ人ノミ其利益ヲ享有セテ其苦

痛ヲ後世ノ人ニ貽スモノナリト曰ヒ公債ノ募集ハ却テ政府ノ信用ヲ失墜シテ
財政ヲ紊亂スルノ虞アリト曰ヒ租稅ハ公債ニ比シテ政府人民共ニ此カ勤勉節
儉ヲ獎勵スト曰ヒ屢公債ヲ募集スルニ於テハ資本家ヲシテ偷安ノ氣ヲ生セシ
メ必要ナル事業ノ發達ヲ妨害スルノ憂アリト曰ヒ公債ハ一國流動資本ノ増加
ヲ障害シ不動資本ノ改良ヲ阻害スルノ弊アリト曰ヒ公債ハ戰爭ヲ誘導シ租稅
ハ戰爭ヲ制止スト曰ヒ公債ハ國民ノ財政監督ヲ軟弱ナラシムルモノナリト曰
ヒ公債ノ募集ハ物價ノ昂騰ヲ來タシ率テ恐慌ノ原因ヲ爲スモノナリト曰ヒ公
債ハ勞力者ノミヲシテ公費ヲ負擔セシムルモノナリト曰フ等此等ノ非難モ究
竟公債ノ使用方法ノ誤ラレ易シト云フニ歸一スルモノニシテ其使用方法ノ誤
ラレ易キハ一ニ其募集ノ容易ナルニ在リ收入ノ途容易ナルトキハ濫費ノ之ニ
伴フハ數ノ免レ難キ所ニシテ殊ニ政府ニ在リテハ負債ノ危險ハ一人ノ場合
ニ比シテ發生スルコト稀ニシテ又此カ救正手段ニ乏シカラサルヲ以テ不知不
識ノ間ニ弊害ヲ醸成セ雷ニ租稅ニ依ルヘキ場合及ヒ租稅ニ依ルコトヲ得ヘキ
場合ニ公債ヲ以テスルノミナラス施政者ノ功名心不注意ハ不急無用ノ事業ヲ

企テ時ニ一國ノ生存ヲ危クスルコト少カラス是レ一方ニハ人民カ租稅ノ場合ノ如ク其利害關係自己ニ直接ニ影響スル所ナク公債ヲ起ストキハ結局之カ償還ノ爲メ後來租稅ノ負擔ヲ受クヘキモ眼前ノ利害關係ニ影響セサルヨリ之カ利害ヲ討究スルコト自ラ等閑ニ付シ易ク殊ニ應募者即チ社會ノ有力ナル一部分ヨリ觀レバ管ニ元金ノ償還ヲ受クルノミナラス尙キ利子ヲ收得スルモノナルヲ以テ政府ハ租稅ノ徵收ニ由リテ支辨セラルヘキ經費モ平易ニ財政一時ノ彌縫ヲ公債募集ニ依ルノ傾向ヲ生シ易シ所謂ヒュームカ政府カ公債ノ募集權ヲ得ルハ猶ホ浪費者ニ倫敦ノ銀行ヨリ預金引出ノ權利ヲ與フルニ異ナラスト云ヘルモノ亦是ナリ

臨時ノ不足ノ性質ヲ分類スレバ其間ニ豫期スヘキモノト豫期スヘカラザルモノアリ天災地變殊ニ戰爭ノ如キハ其發生ノ豫期シ難キノミナラス其經費ノ總額モ亦豫期シ難キモノナリ土木等ノ爲メニ要スル費用即チ郵便電信鐵道築港運河其他軍備等ノ企業ニ在リテハ其發生其經費共ニ大體ニ於テ之ヲ豫期スルニ

難シト爲サス面シテ前者ハ其支出ノ絕對的ニ急速ナルコトヲ要スル場合多ク後者ハ其支出ノ相對的ニ急速ナルコトヲ要スル場合多シ即チ此等ノ工業ハ毎年經常費ノ定額内ニ於テ其經費ヲ支辨シ資金盡タルトキハ再ヒ資金ヲ生スル迄ハ工業ヲ中止シ得ヘキ性質ノモノニ非ラスシテ絕對ニ急速ナラサルヲ得サニハ非サレトモ此等ノ生産事業等ハ速ニ竣功セシムル一方ニハ其間投下セラル資本ヲ死物ト爲シ一方ニハ富ノ増殖ヲ遅延セシムルノ虞アルヲ以テ急速ナルヲ必要ト爲スモノナリ殊ニ此等ノ事業ハ其利害關係一般ノ人民ニ通シテ緊切ナルモノニ非サルヲ以テ増稅ハ管ニ急速ノ需要ヲ充ス能ハサルノミナラス一般人民ノ反抗ヲ招キ易キモノナリトス故ニ土木事業ノ經營ニハ公債ニ依ルコトヲ例ト爲スハ前述セル處ノ如シ

濠洲殖民地及ヒ印度ノ公債ノ如キ殆ト皆土木ノ爲メニ起セシモノニシテ歐米ニ於テモ土木ノ爲メ公債ヲ起スモノ甚タ多シ其著名ナルモノニ至リテハ佛蘭西英吉利埃及等カ起セル蘇士運河公債ノ如キ佛蘭西ノ巴奈馬運河會社ノ株券ヲ保證セルカ如キ露西亞ノ西比利亞鐵道公債ノ如キ其例ナリ我國ニ

在リテモ明治十一年ニ發行セル起業公債明治十六年ニ發行セル中山道鐵道公債明治十九年ニ發行セル海軍公債明治二十九年ニ發行セル事業公債ノ如キ皆此類ニシテ其他地方ノ自治團體ニ於テ起セル地方公債ニ至リテハ其類各國ニ通レテ甚タ多シ

此等ノ事業ニ在リテモ一時ニ之ヲ起ストキハ忽チ流動資本ト固定資本ノ權衡ヲ失シ金融市場ニ激動ヲ來スハ自明ノ理ニシテ外國債ニ依ルトキハ急激ナル資本ノ潤澤ハ物價ノ暴騰投機事業ノ濫興ヲ來シ其反動トシテ金利ノ上騰物價ノ下落ト爲リ經濟界ヲ紊亂スヘク又内國債ニ依ルトキハ流動資本ヲ吸收シテ金融ノ逼迫ヲ來シ率テ恐慌ヲ來スニ至ルハ米國太平洋鐵道ノ起業ニ徴スルモ言ヲ挾タケル所ナリ一方ニハ急速ヲ要スルト共ニ一方ニハ之ニ對シ當時ノ經濟界ノ趨勢ニ鑑ミテ多少ノ斟酌ヲ加ヘスンハ非サルナリ

論者或ハ直接間接ニ政府カ土木事業ヲ經營スルコトヲ非難シ英國ノ實例ヲ引キテ根本ヨリ消極論ヲ主張スル者アリ是レ自由放任主義ニ偏セル所見ニシテ固ヨリ干渉ノ極民業ト相競争スルハ其弊害少カラスト爲スモ歴史上放任主義

ノ理論實際ニ行ハレ其富ノ大ニシテ其人民ノ進取ノ象氣ニ富メル英國ヲ以テ直チニ一般ヲ律スルハ其根本ニ於テ誤レルノミナラス英國ト雖モ地方政府ニ在リテハ其公債ノ大部ハ土木事業ノ經營ニ屬シ而モ年年多少ノ増加ヲ示シ一千八百六十七年ニハ五九八七〇〇磅ナリシモ一千八百七十四年ニハ八二〇一四九九磅ト爲レリ(アングロ、サキソン)八種モ印度、澳洲、加奈、太喜望峯等ノ殖民地ニ在リテハ土木ノ公債ヲ起スヲ例ト爲セリ要之起業公債モ那翁三世ノ如ク不念無用ノ事業ニ濫費スレハ固ヨリ其害毒大ナルモ苟モ有用ナル事業ナルトキハ金融界ノ狀況ト其事業ノ性質必要ト對照シテ公債ノ募集ニ依ルヘク若シ租稅ニ依ルモ尙有害ナシトスレハ之ニ依ルヘキコト又言ヲ挾タサルナリ唯概シテ其全部ヲ租稅ノ方法ノミニ依リテ支障ナキ場合カ事實ニ於テ多カラスト云フニ過キサルナリ

「アダムス」氏ハ巨額ノ臨時不足ヲ充スカ爲メ臨時ノ増稅ニヨルハ公債ニヨル經濟崩ノ方便ニ比シテ尙ニ國民ヲシテ苛大ノ負擔ニ苦シマシムルノミナラス經濟界ヲ擾亂シ其臨時ノ増稅ニシテ重キニ失スルトキハ勢ヒ政府ノ徵收スル課稅

額ノ全部若クハ一部ハ更ニ國民ヲシテ私債ヲ起スノ必要ヲ生スルニ至ルヘク
 公債發行ノ場合ニ於テハ政府一人ニシテ債務者ト爲リ債權者ハ各自ノ財産所
 得ノ餘裕ニ伴ヒ資本ヲ供給スル幾ノ資本家ナリ重税賦課ノ場合ニ於テハ債
 權者ハ政府一人ナルモ債務者ハ資本ノ一部ヲ割キテ政府ニ納付スル幾萬ノ生
 産者ナリ故ニ公債ト重税トノ利害ハ政府ト一人トハ何レカ低利ノ資本ヲ借
 入ルコトヲ得ヘキヤノ一點ニ歸著スヘント所論少シク極論ニ奔ルノ嫌ナキニ
 非ラサルモ亦此等臨時巨額ノ支出ヲ充スカ爲メ公債ノ便ニシテ且ツ利ナルハ
 詳論ヲ竣タサル所ナリ

豫期シ難キ臨時ノ支出即チ主トシテ軍事費ニ付テハ「アダム、スミス」「リカル
 ド」「デヤン、パブチスト、セイ」「ジョセフガルニニー」「ジベセー」「コルベール」「グラッ
 ドストーン」等ノ大家ニシテ猶ホ租税ニ依ルヘシト主張スル者アリ「アダム、スミ
 ス」氏ノ如キ其所論ハ經濟上財政上等ニ基因セスシテ道德上ノ觀念ヨリ立論シ
 戰爭等ノ時ニ當リ政府重税ヲ課シテ民心ヲ失フヲ恐レ戦スレハ公債ヲ募集
 シテ其費用ヲ助ケ後世子孫ヲシテ重税ヲ負擔セザムルカ如キハ理ニ於テ爲ス

ヘカラス大國ノ人民ニシテ遙ニ戰地ニ遠カレル者ハ戰爭ノ災害ヲ被ラス却テ
 日日其軍勢ノ勝報等ニ接シ快ヲ取ルモノニ似タリ故ニ重税ヲ負擔スト雖モ決
 シテ不滿ノ念ヲ懷クモノニ非ラスト述ヘ又「グラッドストーン」氏カ「タリミヤ」戰
 争ノ際主張セル論據ノ如キモ亦道德ノ觀念ニ基キ公債ヲ以テ事ヲ爲スハ眞ニ
 之ヲ爲スニ非ラス後世ヲシテ其局ヲ結ハシムルモノナリ而シテ戰爭ニハ多少
 ノ名譽之ニ伴フモノナレハ特ニ租税ノ重キヲ覺エサルトキハ戰爭ノ痛苦ヲ悟
 ラス動モスレハ國力ヲ濫用セテ干戈ヲ動カス憂アルヲ以テ殊ニ其重税ヲ悟ラ
 シムルハ大ニ一國人民ノ勤勉慎重ノ念ヲ喚起スルモノナリト論セリ又「コルベ
 ール」氏ノ如キ財政上ヨリ公債ノ増加ハ一方ニ租税ノ増加ヲ遞増シ遂ニ停止ス
 ル所ヲ知ラサルニ至ルコトヲ論セリ此等ノ所論固ヨリ絕對ニ非難スヘカラサ
 ルモ非常ノ費用ヲ仕拂フニ當リテ租税ニ依ルヘカラサルハ事實問題トシテ絶
 對又ハ相對ニ不能ナルニ在リ

急速ノ需要ヲ待テ軍事費ノ如キハ供給ノ機ヲ失スレハ延テ一國ノ生存ヲ消
 長スルニ至ルモノナリ隨テ若シ租税ニ依ルモノトセハ勢ヒ増税ニ依ラスンハ

非ラズ然レトモ近時尙レノ財政ニ於テ地稅ノ支出益多キヲ加ヘ平時ニ在リテ稅率ヲ低度ニ止メテ非常ノ需要アルニ際シ之ニ應スルハ餘裕ヲ作ルコトトシテ始ト稀ニシテ殊ニ直接稅等ハ納稅期一定セルヲ以テ之ヲ變更シテ增率シ一時ノ收入ヲ計ルコトハ容易ノ業ニ非ス又間接稅等ハ納稅期一定セザルヲ例ト爲スモ此等ノ租稅ハ戰時ノ如キ經濟界不振ノトキハ總令稅率ヲ變更スルコト無キモ其收入ヲ減少シ此カ增率ヲ爲ストキハ益其收入ノ減少ヲ來スモノナルハ前ニ租稅屈伸力ノ節ニ於テ論述セル所ノ如シ況ヤ軍事費ノ如キ巨額ノ支出ヲ要スルモノニ在リテハ必スヤ新稅ニ依ラスンハ非ラス而シテ新稅ノ設置ハ政府爲メニ許多ノ手數ト費用ヲ要シ收入緩慢ニシテ急速ノ需要ニ應スル能ハス豫定期ノ收入ヲ期スルニ難ク若シ豫期ニ反スレハ財政破綻ノ緒ヲ開キ人民ノ感情ヲ害スルコト深クシテ租稅ノ公正ヲ誤ルコト多カルヘク結局新稅ニ依ラントハ絕對的不能ナリト斷言スルモ敢テ不可アルヲ見サルナリ故ニ若シ租稅ニ依ラントスレハ財源ヲ涸竭シ一般生産事業ヲ阻害セザル範圍内ニ於テ增率ノ法ニ依ラスンハアラス而シテ其時期ノ遷延ハ納稅期ノ一定セルモノニ於

テ殊ニ甚シキヲ見ルヲ以テ多クハ先ツ稅率ヲ増シ又ハ新稅ヲ起スヤ其實收ニ先シテ一時大藏省證券ヲ發行シテ急速ノ需要ニ應ジ租稅ノ收入ヲ以テ漸次之ヲ償却セル例アリ是レ英國カ「クリミア」戰爭ニ於テ實驗セシ方法ニシテ又少クトモ一時ノ方便トシテ公債ノ絕對的ニ必要ナルコトヲ反證スルモノナリ

合衆國ニ於テハ一千八百十二年ノ戰役ニ戰事費トシテ徵收セル直稅ハ當初二年間ハ收入ヲ生スルコト無ク一千八百十六年ニ於テ最高額ノ收入ヲ生シタルモ既ニ財政ノ窮況ヲ脱シタル時タリシナリ又南北戰爭ノ際ニ於ケル内國消費稅モ一千八百六十三年ノ下半年ニ至ル迄ハ著シキ歲入ヲ生スルコト無ク一千八百六十五年四月一日前四箇年度ノ總收入額ハ三億一千四百萬弗ナリシカ其後四箇年度ノ總收入額ハ九億六千七百萬弗トナレリ是等ノ實例ハ其ニ新稅法ノ流行ハ財政上緊急ノ事變ニ際シ毫モ依ルヘカラサル所以ヲ證スルニ餘アリトス

「クリミア」戰爭ニ於ケル英國財政ノ措置ハ非常支出ノ爲メ租稅ニ依リシ好箇ノ實例ニシテ又他ニ例ヲ見サル所ナリトス蓋シ當時英國ハ四十年ノ太平ノ後

ヲ受ケ諸稅殊ニ間接稅ハ非常ノ減率ヲ經テ租稅ヲ增加セシト雖モ實ハ唯舊稅率ニ復セシニ過キサリシナリ而シテ「タリミヤ」戰爭ハ輿論ノ歡迎ヲ受ケ殊ニ暇地ハ本國ヲ去ル八百海里ノ外ニ在リテ經濟界ハ爲メニ毫モ妨害ヲ受ケタルコトナク派出ノ兵員又僅ニ四萬ヲ超エス露ノ海軍ハ英ノ商船ニ危害ヲ加フルノ力ク其需要モ亦急速ヲ要セス而シテ其結局ハ勝利ニ了リシモノナルヲ以テ此ノ如キ機會ハ英國ニ於テ又稀有ニ屬スルモノニシテ他國ニ在リテハ又殆ト期スルコト克ハサルモノタリ而シテ此好機會ニ於テ仍ホ此租稅ニ依リテ之カ救正ヲ全ウスルコト克ハス租稅論者「グランドストーン」氏ノ名譽勢力ト英國人民ノ富裕ナルニ拘ラス遂ニ永遠公債ニ依ルノ止ムヲ得サルニ至リシハ少クトモ此等ノ場合ニ於テ全ク租稅ノミニ依ルコトハ絕對ニ不能ナルコトヲ示スニ餘アリト謂フヘキナリ即チ當初ハ間接稅直接稅殊ニ所得稅ヲ增加シタルモ其收入ノ遲延タルト之ヲ急ニ増加スレハ大ニ産業ノ發達ヲ阻害スルコトヲ見出セルヲ以テ一箇年以内ノ償還期限ヲ有スル大藏省證券ノ發行ニ依リシモ其證

券ノ應募者ノ少キト政府豫期ノ如ク之ヲ償還シ能ハサルヨリ遂ニ千八百五十四年更ニ同類ノ證券ノ期限三箇年乃至五箇年ノモノヲ發行スルコト前後四回ニ及ヘリ若シ此方法ニ依リテ豫期スル所ノ金額ヲ吸收シ尙ホ豫期ノ如ク整理ヲ完ウセンニハ租稅增加法ト國債募集法トノ長所ヲ併用シテ負擔ヲ後世ニ貽スコトナク又稀有ノ好果ヲ見ルヘカリシモ應募額ハ僅僅七百萬磅ニ止マリテ所要ヲ充タスコト遙ニ遠ク一方ニハ「グラッドストーン」氏モ仍ホ所論ヲ一貫シテ重稅ヲ課スルコトヲ敢テスルコト克ハス一千八百五十五年四月遂ニ三分利附ヲ以テ一千六百萬磅ノ永遠公債ヲ募集スルノ止ムヲ得サルニ至リ同年又五百萬磅ヲ募集シ翌年ニ至リ更ニ五百萬磅ヲ募リ又大藏省證券三百萬磅ヲ永遠公債ニ借換フルニ至レリ故ニ「タリミヤ」戰爭費總額六千九百二十七萬七千六百九十四磅中永遠公債ニ係ルモノ二千九百萬磅之ニ大藏省證券ヲ加フレハ總計三千九百七十一萬五千磅ニシテ其過半ハ實ニ公債ノ力ヲ假ルノ止ムヲ得サルニ至レリ蓋シ大藏省證券即チ短期公債ニ依ルコトハ外國ノ游金ヲ吸收スルニ足ラス内國人モ其手數ニ比シテ利益ノ割合少キヲ以テ之ニ應スル者少ナク又

大銀行ト雖モ巨大ノ額ヲ賣盡スコト克ハサルニ之ヲ購買シテ死物ト爲スノ虞ヲ學ハサルノミナラス又克ハサル所ニシテ殊ニ戰後三四箇年間ハ重稅ヲ課スヘキトキニ非ラスシテ却テ民力ヲ扶養スヘキトキナルヲ以テ暫ク措置キテ償却セサルヲ便トシ又租稅モ無限ニ此ヲ徵收スルコト克ハス通常費ヲ超ユルコト多キ非常費ヲ租稅ニ仰カンコトハ殆ト事實不能ト謂ハスハ非ス地勢ニ於テ富ノ實力ニ於テ國民ノ品性ニ於テ英國ニ劣レル各國ニ於テ殊ニ然ルノミナラス戰敗レタル場合ノ如キ又言ヲ埃タサルナリ

論者或ハ公債募集ノ必要アル多クノ場合即チ戰時等ニ在リテハ人民皆危懼ノ念ヲ懷キ資本ハ多ク藏匿セラレ警戒ヲ加フル秋ナルヲ以テ資本ノ吸收ハ最も困難ヲ極ムル所ナリトス故ニ募集ノ成效ヲ期センカ爲メニハ種種ノ特典ヲ付與スルコトヲ要スルノミナラス一朝其誘引ニシテ仍ホ效ヲ奏セサルトキハ政府ノ信用失墜シテ第二期第三期ト募集ノ度ヲ重スルニ從ヒ其失態ノ復拾收スヘカラサルニ至ルモノナリ彼ノ千八百十二年及千八百六十一年ノ合衆國財政ノ狀況ノ如キ是ナリト反論スルコトアリ然レトモ諺ヲ軍事費ヲ支出スル爲

ノ政府カ公債ヲ募集シテ而モ其效ヲ奏セサル場合ハ多ク其政府カ戰時ニ於テ敗北ニ歸スヘキコト一般ニ認メラレ又財政ノ信用既ニ業ニ動搖セル場合ニシテ近ク米國戰争ニ於ケル西班牙政府ノ如キ狀態ニ臨メル時ニ在リ此等ノ秋ニ在リテ公債ノ奏效シ難ク率テ財政ノ破綻ヲ來タスヘキコトハ固ヨリ疑ナキ所ナレトモ此等ノ場合ニ於テ租稅ヲ以テセハ其失敗ノ大ナル更ニ公債ノ場合ニ倍從スルノミナラス其弊ノ及フ所亦獨リ財政ノ一面ニノミ限ラレサルコトヲ思ハスンハ非ス彼ノ普佛戰争ノ時ノ如キ佛國ノ經費ノ總額ハ百十四億七千百萬法ニ上リ佛國財產總額ノ一割四分餘ニ當リ北米合衆國ノ南北戰争ニ於ケルカ如キ千八百六十二年ニハ內國生産額ノ五分ノ一ニ當リ千八百六十五年ニハ二割七分ニ上レリ此等ノ場合ニ全然租稅ニ依ラシコトハ收入ヲ得ルヲ法ニ非ラスシテ收入ノ財源ヲ涸竭スルモノニシテ苛稅ノ重斂ハ公債ノ募集ニ對シ其困難復同日ノ論ニ非ラス如何ニナレハ人民ノ財產ハ流動資本ヲ以テ積立ラルルモノニ非サルヲ以テ被稅者ハ直チニ之ニ應スルコト克ハス結局公債ノ元利ヲ支拂フヨリ幾倍セル高利ノ金員ヲ他ヨリ借入レサルヲ得サレハナリ

公債ノ募集ノ奏效ヲ必シ難キハ論者ノ言ノ如シ然レトモ租稅ノ奏效ノ尙ホ難キヲ知ラスンハ非ラサルナリ然レトモ公債ハ窮極一時ニ處要ノ支出額ヲ充タスシテ濟崩ノ法ニ依リ之カ負擔ヲ後世ニ貽スモノナリ故ニ若シ急速ノ需要ニ對シ全部又ハ一部カ租稅ニ依ルヲ使トシ又租稅ニ依ルコトヲ得ヘキトキハ公債ヲ後ニシテ租稅ヲ前ニスヘキコト又言フ埃タサルナリ此點ニ於テ失敗ノ歴史ヲ繰返セシハ佛蘭西トス第一次ニ佛蘭西ニクリミヤ戰爭ニ於テ千八百五十五年ニ一回翌年ニ二回ト前後三大公債ヲ募集シ其實收高ハ十五億三千八百二十四萬三千九百四十八法ニシテ其元金高ハ二十二億百五十萬六千八百八十法其利子七千七百七十萬九千四百法ヲ增加セリ勿論十五億餘法ヲ一兩年間ニ全然租稅ニ依リテ徵收センコトハ不能ノ業ナルヘキモ戰爭ノ當初ニ在リテ増稅又ハ新稅ヲ起シテ一割五分乃至二割ヲ增加スレハ少クトモ公債高ノ三分ノ一ハ此ヲ減少スルコトヲ得ヘカリシナリ

「ボリユ」氏ノ說ニ依レハ郵便稅減少ノ禁止、鹽稅入市稅ノ復舊、地租ノ附加稅

ハサルハ無論ナリ然レトモ此ノ如キハ稅額ノ確定セサルモノト謂フノミ納稅義務ノ確定セサルモノト謂フニアラス土地ハ有租地ト爲レハ茲ニ地租ヲ負擔セサルヘカラサルヲ以テ地租納付ノ義務ハ此時ニ於テ既ニ確定スルナリ唯地價ノ設定アルマテハ地租額確定セサルヲ以テ事實上地租ノ徵收ハ不能ニ屬スト謂フニ過キス地價ニシテ一タヒ設定セララルトキハ茲ニ地租ノ金額確定ス地租ノ金額確定シタルトキハ茲ニ地租ノ徵收ヲ爲スコトヲ得地租ノ徵收ヲ爲ストセハ其義務ノ發生シタル時ヨリ之ヲ爲ササルヘカラス而シテ義務ハ標準ノ定マリタル時ニ於テ發生スルニアラスシテ土地カ有租地ト爲リタル時ニ於テ發生スルモノナルカ故ニ地租ノ徵收ハ此時ヲ以テ起點ト爲ササルヘカラス地租條例第二十五條以下ニ於テ地租ヲ追徵スルコトヲ規定シタルカ爲メニ地價設定前ニハ地租ヲ納ムル義務ナシト謂フニ至リテハ其論據ノ薄弱ナルニ驚カサルヲ得ス第二十五條以下第三條ニ於テ特ニ地租ノ追徵ナルコトヲ明言シタルハ現地價ニ依リテ定メタル地價ニ依リテ地租又ハ地租増額ノ追徵ヲ爲スヘキコトヲ明ニ且ツ其追徵ハ三年前以前ニ遡ラサルコトヲ定ムルノ必要ア

ルニ因ルモノナリ之ヲ以テ地價設定前ニ於ケル地租ヲ徵收スルカ爲メニ追徵ナル明言ヲ爲セタルモノト謂フコトヲ得ス特ニ論者ノ議論ハ此點ニ於テ自家權者ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ地價設定前ニ於テハ地租納付ノ義務ナキモノナリトセハ第二十五條以下三條ニ規定スル如キ土地ニ付テハ追徵スヘキ地租ナルモノアルコトナシ追徵スヘキ地租ナキコトヲ證明スルニ之ヲ追徵ストノ法文ヲ引用スルハ論理ノ一貫セサル所アルヲ免レサルヲ以テナリ故ニ予ハ乙說ヲ取ラス甲說ヲ以テ地租條例其他地租ニ關スル現行法規ノ正當ナル解釋ナリト信ス然レトモ乙說ニ從フトキハ法律ニ明文アル場合ノ外ハ地租ノ追徵ナルモノヲ認メサルカ故ニ行政處分ノ遅延シタルカ爲メ一時ニ多額ノ地租ヲ課セラルルカ如キコトヲ生セサルノ便アリ現今實際ノ取扱ハ專ラ乙說ニ依ルモノノ如シ

地租ハ年稅ナルカ故ニ土地カ地租ヲ課スヘキモノト爲リタルトキハ納期ノ經過シタル租額ヲ不問ニ付スルト否トハ別問題トシ原則トシテハ其年ヨリ全額ヲ徵收スヘキモノナルコトハ以上述フル所ノ如シ此原則ハ次ニ掲クル場合ニ

於テ特例ヲ有ス

(イ) 官有地ノ拂下ヲ受ケテ有租地ト爲シタルトキ(明治十年大政宣布告第十八號) 此場合ニ於テハ拂下ノ年ハ其翌月ヨリ月割ヲ以テ地租ヲ徵收スヘキモノニシテ全額ヲ徵收スヘキモノニアラス但シ拂下トハ代價ヲ支拂ヒテ所有權ヲ取得スルコトヲ謂フカ故ニ無代下渡ヲ得タル土地ハ月割徵收ヲ爲スヘキモノニアラス原則ニ從ヒ全年分ノ地租ヲ徵收セサルヘカラス

(ロ) 鄉村社地墳墓地用悪水路溜池隄塘井溝鐵道用地及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路ニシテ公共團體ニアラサル者ノ所有ニ係ルモノヲ有租地ト爲シタルトキ地租條例第一三二條) 茲ニ掲クル土地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受ケサルヘカラス(地租條例第一一條)而シテ其年ハ許可ヲ得タル月ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ地租ヲ徵收スヘキモノトス

(ハ) 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止シ又ハ制限シタル土地ニシテ其禁止又ハ制限ヲ解キタルトキ(明治三十二年勅令第三百七十四號第三條) 此場合ニ於テハ禁止又ハ制限ヲ解キタル月ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ其年ノ地租ヲ徵收スヘキ

モノトス明治三十二年勅令第三百七十四號第三條ハ月割ヲ以テ地租ヲ徵收スヘキコトヲ明言セスト雖モ禁止又ハ制限ヲ解キタル月マテ地租ヲ免除スト旨ヘハ自ラ其翌月ヨリ月割ヲ以テ之ヲ徵收スヘキノ意義ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス

(二) 公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地ニシテ公用ヲ廢止シタルトキ(明治三十三年法律第十九號) 法律ハ公用廢止ノ年マテ地租ヲ免スヘキコトヲ定メタルヲ以テ其年ハ地租ヲ課セス翌年ヨリ之ヲ徵收スヘキモノナリ公立學校水道用地及ヒ傳染病豫防法ニ依ル傳染病院隔離病舎隔離所消毒所ノ敷地ハ公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地ナルヲ以テ總テ明治三十三年法律第十九號ノ適用ヲ受クヘキモノトス隨テ地租條例第十三條第二項ハ公立學校ニ關シテハ其適用ヲ失ヒ明治三十一年法律第四號ハ自ラ廢止セラレタルモノト謂ハサルヘカラス

(三) 新開免租年期ヲ有スル土地ニシテ年期明ト爲リタルトキ(地租條例第一五條) 新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス免租年期ハ全年ヲ以テ計算ス

ルカ故ニ年期明ノ翌年ヨリ課稅スルハ是レ正シク原則ニ適スルモノニシテ或ハ之ヲ特例ト見ナルヲ可トスルナラヘシ

土地分合ノ場合ニ於テハ地價ヲ定ムト謂フト雖モ他ノ場合ノ如ク全ク地價ナキ土地ニ地價ヲ附スルト異ナリ地價ヲ有シ且ツ地租ヲ負ヒタル土地ノ區域ヲ變シタル爲メ新區域ニ對シテ地價ヲ定ムルノミ而シテ其地價ノ設定タルヤ從前ノ地價ヲ分配又ハ併合スルヲ以テ簡便ト爲スヘク實際ニ於テモ殆ト皆此ノ如キ方法ヲ取ルモノノ如クナルヲ以テ納稅義務ノ區分ノ如キ問題ハ起ラサルヘシ然レトモ分合ニ際シテハ四捨五入ノ計算ノ爲メ前後租額ニ小差違ヲ生スルコトアルヲ以テ其年ハ孰レノ租額ヲ以テ地租ヲ徵收スヘキヤハ一疑問タラサルニアラス予ノ考フル所ニ依レハ此ノ如キ場合ニ於テハ租額ニ彼此ノ區別ヲ爲ナス納期ニ於ケル現在ノ計算ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノナリト信ス

第二 地價ノ修正

地租ノ沿革ヲ叙スルニ當リテ畧述シタル如ク地租改正當時ニ於ケル立法者ノ意ハ地價ヲシテ常ニ土地ノ賣買實價ニ伴ハシメントスルニ在リシモノノ如シト

雖モ改正事業ノ困難ニシテ各地畫一ヲ得ルノ容易ナラサル類ヲ當局者ヲシテ此ノ如キハ衡平ヲ得ルノ法ニアラサルコトヲ感知セシムルニ至リ終ニ一定ノ年間ハ地價ヲ据置キ其經過スルヲ待チテ一整ニ之カ改正ヲ爲スノ方針ヲ取ラシムルニ至レリ然レトモ實際ノ經驗ハ此第二ノ方針モ亦言フヘクシテ行フヘカラサル事ニ屬スルコトヲ明ニシ明治十七年地租條例ヲ制定セラルルニ及ヒ其第八條ヲ以テ「一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘキ」コトト爲シタリ明治七年第五十三號布告ハ地價ヲシテ法定的ノモノタラシムル第一歩ナリシニハ相違ナシ然レトモ該布告ハ尙ホ一定ノ年間後ハ地價ヲシテ賣買實價ニ一致セシムヘキコトヲ豫期スルモノナルカ故ニ地價ノ法定的ナルハ唯其期間中ニ於テノミナリト謂フコトヲ得ヘシト雖モ地租條例ハ更ニ一步ヲ進メ地租ノ改正ハ法律ノ制定ニ因リテ始メテ之ヲ爲スヘキコトヲ明ニシタルヲ以テ地價ハ地租條例ニ依リテ固定不動ノモノト爲リ純然タル法定價格ト爲リタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ今日ニ於テハ地價ヲ變更セントモハ獨リ、其一般ノ修正ニ於テ法律ノ制定ヲ要スルノミナラス其一部ノ修正ニ於テモ亦

必ス法律ノ規定アルコトヲ要スルモノトス地租條例第七條カ「地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セス」ト規定シタルハ此趣旨ヲ明ニシタルモノナリ該條カ後ニ説明スヘキカ如ク地價修正ヲ爲スヘキ場合ノ全部ヲ包含セサルハ規定ニ不備アルヲ免レズト雖モ元來第十條以下ノ規定アレハ該條ノ如キハ之ヲ揭タルノ必要極メテ少キモノナルヲ以テ規定完備ヲ缺クモノ實際ニ於テハ甚シク事ニ害アルモノニアラサルナリ

一 地價ヲ修正スヘキ場合

地價ナルモノハ地租計算ノ標準ニ過キサルカ故ニ苟モ彼此ノ權衡ニシテ其當ヲ得タランカ地租ノ負擔ハ自ラ衡平ヲ得ヘク標準タルノ效ハ益ニ完キヲ得ルモノナリ其賣買實價ニ適合スルト否トノ如キハ問ハスニテ可ナリ現行地價ノ現時ノ土地價格ト一致セサルコトハ殆ト言フヲ須タサル所ナリト雖モ當初之ヲ設定セラルルニ當リテハ縣ヨリ郡ニ及ホシ郡ヨリ町村ニ及ホシ以テ一筆ニ至リ彼此相比較考量シテ之ヲ定メタルモノナルカ故ニ其間ニ於ケル權衡ハ先ツ相保タレタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ之ヲ標準トシテ地租ヲ課スルハ

之ヲ以テ土地所有者間ニ不公平ナキニ庶幾キモノト謂ハサルカラス然レトモ彼此權衡ヲ得タリト謂フハ其當時ノ現狀ニ於テ之ヲ謂フモノナルヲ以テ其狀況ニシテ著シク變更スルトキハ其權衡ハ自ラ之ヲ保ツコトヲ得サルニ至ルヘシ固テ勢ヒ其變更セタル狀態ニ依リテ更ニ彼此ノ權衡ヲ測リ以テ其地價ヲ修正スルニアラサレハ之ヲシテ適當ナル課稅標準タラシムルコト能ハス故ニ地租條例ハ土地ノ形狀ニ著シキ變更アリテ其利用ノ狀態全ク一變シタルカ如キ場合ニ於テハ地價ヲ修正スヘキモノト爲スヲ以テ其現況ニ應シタル賦課ヲ受ケシメントセリ予ハ今左ニ其場合ヲ列舉シ簡短ニ其説明ヲ加ヘントス

(甲) 地目變換ヲ爲シタルトキ

地目變換トハ有租地中ノ第一類又ハ第二類ニ屬スル或地目カ同類地中ノ他ノ地目ニ變スルヲ謂フ地租條例第三條第二項例ハ畑ヲ田ニ變シ郡村宅地ヲ畑ニ變シ山林ヲ牧場ニ變スルカ如シ此場合ニ於テハ土地ノ利用ノ狀態ヲ變更スルヲ以テ自ラ其收益ニ異同ヲ生スヘシ故ニ法律ハ其地價ヲ修正シテ同地目ノ他ノ土地ニ對スル權衡ヲ取リ以テ地租ノ負擔ヲシテ公平ナラシムルヲ相當ト

爲シタリ(地租條例第七條但シ地租條例第七條及ヒ地目變換地ノ地價修正ニ關スル法律ハ總テ地目變換ヲ爲シタル場合即チ土地所有者カ其意思ヲ以テ土地ノ利用方法ヲ變更シタル場合ニ付テ規定スルカ故ニ所有者ノ意思ニ因ラサル地目ノ變換ノ場合即チ法律ヲ以テ地目ヲ組換ヘタル場合ニ於テハ其適用ヲ見サルモノトス故ニ明治三十二年法律第三十二號宅地組換法ニ依リ命令ヲ以テ郡村宅地ヲ市街宅地ニ組換ヘ又ハ市街宅地ヲ郡村宅地ニ組換フルコトアルモ其地價ハ修正スヘキモノニアラサルナリ

地目變換ノ場合ニ於テハ地價ノ修正ヲ爲スヘキモノナリト雖モ其變換ノ狀態如何ニ因リ法律ハ修正ヲ爲スヘキ時期及ヒ修正地價ヲ適用スヘキ時期ヲ異ニシタルヲ以テ予ハ法律ノ區別ニ從ヒ場合ヲ細別シテ説明ヲ爲スヘシ

(イ) 地目變換ニシテ開墾ニ等シキ勞費ヲ要セサルモノ地租條例第一〇條第二項 土地所有者カ地目ノ變換ヲ爲スハ多クハ其土地ノ形狀位置カ變換ヲ爲スニ便宜多キヲ以テ之ヲ爲スモノナルヲ以テ地目變換ハ通常甚シキ勞費ヲ要スルモノニアラス此ノ如キ土地ハ變換ノ年ヨリ五年以内ニ於テ適宜其地價ヲ修

正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノトス變換ノ年ニ於テ直
 チニ地價ヲ修正スヘキモノト爲サスシテ五年間ノ猶豫ヲ置キ其間ニ適宜修正
 ヲ爲スヘキモノト爲シタル法律ノ趣旨ハ年年變換地ノ檢査ヲ爲スノ努力ヲ省
 キ五年間ニ生シタル變換地ヲ一纏ト爲シ五年毎ニ一回ノ檢査ヲ以テ其整理ヲ
 了セントスルニ在リタルモノノ如シ然レトモ實際ニ於テハ此趣旨ノ行ハレタ
 ルヤ否ヤハ頗ル疑ハシキモノアルニ似タリ

(ロ) 地目變換ニシテ閉墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノ地租條例第一四條第一六
 條第六項第一九條) 普通ノ地目變換ハ多クハ地勢ノ便宜ニ依リテ之ヲ爲スモノ
 ナルカ故ニ變換ヲ爲スト同時ニ變換シタル地目トシテノ利用ヲ完ウスルコト
 ヲ得ヘシト雖モ土地ノ形狀如何ニ因リテハ此ノ如キ便宜ヲ有セス例ヘハ畑ヲ
 變換シテ田ト爲スニモ殆ト山林又ハ原野ヲ開闢シテ田ト爲スニ讓ラサルノ勞
 費ヲ要スルコトアリ此ノ如キ變換地ニ在リテハ相當ノ年所ヲ經過スルニアラサ
 レハ變換シタル地目トシテノ利用ヲ完ウセサルモノ多ク普通ノ場合ニ於ケル
 カ如ク六年目ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ徵收スルモノトセハ地力ニ比シテ負

擔ノ相當セサルカ如キ場合ナシトセス故ニ法律ハ實地ノ情況ニ依リ三十年以
 内ノ地價據置年期ヲ許可シ年期中ハ現ニ有スル地價ニ依リテ地租ヲ賦課シ年
 期明ニ至リ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ賦課スルコトヲ許シ
 タリ但シ地價據置年期ハ出願ニ因リテ許可スルモノナルヲ以テ(地租條例施行
 規則第一四條) 地目ヲ變換シ開墾ニ等シキ勞費ヲ要シタル場合ト雖モ地價據置
 年期ヲ出願セサルトキハ變換ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ五年目ヨリ修
 正地價ニ依リテ地租ヲ徵收スヘキモノトス

地租條例第十八條ハ其第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功
 ニ至ラサルモノハ更ニ繼年期ヲ許可スヘキコトヲ規定スト雖モ第十六條第六
 項ノ年期ニ關シテハ之ヲ規定セサルヲ以テ地價據置年期ニ限リテハ一度許可
 シタルモノハ之ヲ延長スルコトヲ得サルモノトス故ニ年期明ニ於テ既ニ地目
 ノ變換シタルモノハ地價ヲ修正セテ其年ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ徵收セ
 サルヘカラス然レトモ元來此ノ如キ土地ニ付キ地價ヲ修正スル所以ノモノハ
 地目ヲ變換シタルニ因ルモノナルカ故ニ年期明ニ至リ地目變換成功セサルト

キハ地價ヲ修正スルコト能ハス予ノ見ル所ヲ以テスレハ此場合ニ於テハ年期ハ滿了ト共ニ消滅スルカ故ニ爾後變換成功スルトキハ無年期ノ變換地トシ事實變換シタル年ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ニ至リ修正地價ヲ適用スヘキモノナリト信ス

(乙) 地類變換ヲ爲シタルトキ

地類變換トハ有租地中ノ第一類地ヲ第二類地ト爲スヲ謂フ(地租條例施行規則第一四條例ヘハ第一類地タル田ヲ第二類地タル池沼ト爲シ又ハ第一類地タル畑ヲ第二類地タル原野ト爲スカ如シ此場合ニ於テハ地目變換ノ場合ト同シク土地ノ利用ヲ變更スルヲ以テ前後自ラ收益ヲ異ニスルニ至ルヘク隨テ法律ハ地價ヲ修正シ地租ノ負擔ヲシテ土地ノ所得ニ比準セシムルヘキモノト爲シタルナリ(地租條例第七條但シ地類變換ノ場合ニ於テハ地目變換ノ場合ノ如ク變換ヨリ五年以内何時ニテモ地價ノ修正ヲ爲シ得ルニアラス變換ヨリ五年間ハ現地價ニ依リテ地租ヲ課シ六年目ニ至リ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ課スヘキモノトス)地租條例第一〇條第三項第一四條元來地類變換ナルモノハ

多クノ場合ニ於テハ土地利用ノ改良ニアラスシテ寧ロ利用廢廢ノ結果ニ出ツルヲ常トス故ニ舊時ヨリ爲政者ハ好意ノ眼ヲ以テ地類變換ヲ視ス舊租時代ニ於テハ耕地ヲ原野等ニ變シタル場合ニ於テ其石盛ヲ變更スルカ如キコトハ殆ト稀ナリシノミナラス地租改正後ニ於テモ地類ヲ變シタルカ爲メ地價ノ修正ヲ爲スコトハ久シク之ヲ認メナリシナリ然ルニ現ニ第二類地ニ變換シ收益ノ大ニ減少シタル土地ニ對シテ尙第一類地タリシ時ノ地租ヲ課スルハ之ヲ以テ公平ヲ得タルモノト謂フコト能ハサルカ故ニ明治二十二年ニ至リ地租條例ヲ改正シ始メテ地類變換ノ場合ニ於テモ亦地價ノ修正ヲ爲スヘキモノト爲セタリ唯第一類地ノ耕作又ハ修理ヲ怠ルトキハ所有者ハ依然之ヲ第一類地トシテ利用スルノ意思ナルニモ拘ラス容易ニ一見第二類地タルカ如キ狀態ト爲ルモノナルカ故ニ地類ノ變換アルヤ否ヤハ之ヲ知ルコト容易ナラス故ニ法律ハ變換ヨリ六年目ニ至リ其第二類地ト爲リタルコトノ確實ト爲ルニ至リテ始メテ地價ヲ修正スヘキモノト爲シタリ地目變換地類變換共ニ同シク六年目ニ至リ修正地價ヲ適用スヘキモノナリト雖モ其五年間ノ猶豫ヲ置キタル所以ノ趣

旨ニ至リテハ全然相異ナルモノトス

第一類地就中耕地ニハ時トシテ新ニ畦畔又ハ肥料置場ノ如キモノヲ設クルコトアリ畦畔又ハ肥料置場等ノ如キモノハ現ニ耕作セラルル場所トハ地面ノ形狀ヲ異ニスルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ一筆中ノ一部分地類變換ヲ爲シタルモノトシテ取扱ハレタルコトハ嘗テ見聞シタル所ナリ然レトモ畦畔ナルモノハ耕地ヲシテ耕地タラシムル所以ノ設備ニシテ畦畔ハ耕地ヲ離レテ存スルモノニアラス故ニ耕地中ニ畦畔ヲ設クルハ則チ耕地ヲシテ益耕地タルノ利用ヲ完ツセシムルニ近カシムルモノニシテ之ヲ以テ地類變換アリト謂フヘカラス耕地ノ一隅ニ肥料置場ヲ設クル如キモ亦然リ耕地中ニ耕作上必要ナル肥料ヲ藏置スル場所ヲ設クルハ耕地タル利用ヲ爲スニ必要ノ事トス故ニ肥料置場ハ耕地ニ伴フ必要附屬物ニシテ之ヲ設ケタルカ爲メニ其土地ハ耕地以外ノ土地ト爲リタリト謂フヲ得ス隨テ左ニ舉ケル如キ場合又ハ之ニ類似シタル場合ニ於テハ地類變換ニ伴フ法律上ノ效力ヲ生セシムヘキモノニアラス現今ノ實際ニ於テハ此趣旨ヲ以テ取扱ヲ爲スモノノ如シ

(丙) 開墾ヲ爲シタルトキ

開墾トハ有租地中ノ第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スヲ謂フ地租條例第三條第三項例ヘハ山林ヲ開墾シテ畑ト爲シ原野ヲ變換シテ郡村宅地ト爲スカ如シ此ノ如キハ土地ノ利用全ク一變スルカ故ニ地價モ亦隨テ之ヲ修正スヘキモノトス(地租條例第七條地租條例第三條第三項ニ依レハ土地ノ開墾アリト言フニハ第二類地ノ第一類地ニ變シタルコト及ヒ之カ爲メニ勞費ヲ要シタルコトノ二條件具備スルコトヲ要ス故ニ第二類地ヲ第一類地ニ變スルモ之カ爲メニ勞費ヲ要スルコトナケレハ法律上ハ之ヲ開墾ト謂フコト能ハス例ハ雜種地タル物干場ヲ郡村宅地ニ變スルニハ場合ニ因リテ何等ノ勞費ヲ要セサルモノナリ此ノ如キ場合ニ於テハ第二類地變シテ第一類地ト爲ルモノナリト雖モ地租條例ノ所謂開墾ニアラス隨テ此場合ニ於テハ地價ヲ修正ナルコト起ラサルナリ土地ノ利用ヲ變シタル場合ニ於テハ地價ヲ修正スルヲ可ナリトセハ利用ノ變更ノ爲メニ勞費ヲ要スルト否トニ依リ區別ヲ設クルハ理由ナキカ如クト雖モ立法ノ意ハ恐クハ勞費ヲ要セスシテ第二類地ヲ第一類地ト爲スコトヲ得

タルカ如キ状態ニ在リシ土地ハ多クハ第二類地タリシ時ニ於テ既ニ其所得額ト第一類地ト爲リタル時ニ於ケルモノト相若ケルモノナルヲ以テ其有レタル地價モ別ニ之ヲ修正セズシテ第一類地ト爲リタル後ニ適用シテ不權衡ナカクモヘシト認メタルニ在ルナルヘシ但シ法律ノ所謂勞費ヲ加ヘテハ如何ナル程度ノ勞費ナルヤハ事實ノ問題ナルカ故ニ實地ノ狀況ニ依リテ之ヲ判別スヘキモノトス而シテ現今實際ニ於テ行ハルル所ヲ見ルニ第二類地ヲ第一類地ト爲シタルトキハ殆ト常ニ勞費ヲ要シタルモノト爲シ地價ヲ修正セラレルモノノ如シ

一筆ノ土地中ニ畦畔、肥料置場、小逕、小池等ノ如キモノヲ設クルモノヲ以テ地類變換ト見ルヘカラサルカ如ク既ニ存スル畦畔、肥料置場、小逕、小池等ノ如キモノヲ廢除シテ他ノ部分ト同一ノ地面ト爲スモ亦之ヲ開墾ト謂フヘカラス何トナレハ既ニ一筆ノ土地ニ附屬スルモノトシテ之ト同一地目ヲ有スル以上ハ之ヲ廢除スルハ益、同一地目タルコトヲ明ニスルモノニシテ其間第二類地ヲ第一類地ニ變シタルコトナキヲ以テナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ地價ノ修正ナル

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ毎月二回發行シ滿一個年ヲ以テ卒業トス
- 一 一個年ヲ以テ完了セサルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 廿五日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試驗ノ上校内生三年級ニ編入セラルルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十三年八月廿一日印刷
明治三十三年八月廿五日發行

編輯者 小田幹治郎
發行者 小田幹治郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷者 金子鐵五郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

指定

(電話番町百七十四番)